

[illegible]

構造関係共通図（配筋標準図）

1. 1 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所は、表1.1を標準とする。

表1.1 鉄筋の折曲げ内法直径

折曲げ 角度	折 曲 げ 図	折曲げ内法直径 (D)		
		SD295A SD295B, SD345		SD390
		D16 以下	D19 ～D38	D19 ～D38
180°		3d以上	4d以上	5d以上
135°				
90°				
135° 及び 90° (幅止め筋)				

(注) 1. 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フックまたは135° フックを用いる場合は、余長を4d以上とする。
2. 90° 未満の折曲げの内法直径は特記による。

2. 1 異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。
(1) 柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部

ただし、最上階の柱頭の間隔はフックを付ける。

図2.1 末端部にフックを必要とする出隅部の鉄筋（●印）

(2) 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
(3) 杭基礎のベース筋
(4) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋

3. 1 継手及び定着

(a) 鉄筋の重ね継手

(1) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
(2) 鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。

表3.1 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの 設計基準強度 F c (N/mm ²)	L ₁ (フックなし)		L ₂ (フックあり)	
		小梁	スラブ	小梁	スラブ
SD295A SD295B	18	45d	35d	35d	30d
	21	40d	30d	30d	25d
	24, 27	35d	25d	25d	20d
	30, 33, 36	35d	25d	25d	20d
SD345	18	50d	35d	35d	30d
	21	45d	30d	30d	25d
	24, 27	40d	30d	30d	25d
	30, 33, 36	35d	25d	25d	20d
SD390	21	50d	35d	35d	30d
	24, 27	45d	35d	35d	30d
	30, 33, 36	40d	30d	30d	25d

(注) 1. L₁, L₂ : フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合の L₂ は、図3.1に示すようにフック部分Ⅱを含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5 dを加えたものとする。

図3.1 フックありの場合の重ね継手の長さ

(3) 鉄筋の重ね継手の長さとは、フックありなしにかかわらず4 0 d 以上（軽量骨材を使用する場合は5 0 d 以上）と表3.1の重ね継手の長さのうち大きい値とする。

(4) 隣り合う継手の位置は、表3.2による。
ただし、壁の場合及びスラブ筋でD 1.6 以下の場合は除く。

表3.2 隣り合う継手の位置

鉄筋の種類	コンクリートの 設計基準強度 F c (N/mm ²)	L ₁		L ₂	
		小梁	スラブ	小梁	スラブ
SD295A SD295B	18	45d	35d	35d	30d
	21	40d	30d	30d	25d
	24, 27	35d	25d	25d	20d
	30, 33, 36	35d	25d	25d	20d
SD345	18	50d	35d	35d	30d
	21	45d	30d	30d	25d
	24, 27	40d	30d	30d	25d
	30, 33, 36	35d	25d	25d	20d
SD390	21	50d	35d	35d	30d
	24, 27	45d	35d	35d	30d
	30, 33, 36	40d	30d	30d	25d

(b) 鉄筋の定着

(1) 鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。

表3.3 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの 設計基準強度 F c (N/mm ²)	直線定着の長さ		フックあり定着の長さ	
		L ₁		L ₂	
		小梁	スラブ	小梁	スラブ
SD295A SD295B	18	45d	40d	35d	30d
	21	40d	35d	30d	25d
	24, 27	35d	30d	25d	20d
	30, 33, 36	35d	30d	25d	20d
SD345	18	50d	40d	35d	30d
	21	45d	35d	30d	25d
	24, 27	40d	35d	30d	25d
	30, 33, 36	35d	30d	25d	20d
SD390	21	50d	40d	35d	30d
	24, 27	45d	40d	35d	30d
	30, 33, 36	40d	35d	30d	25d

(注) 1. L₁, L₂ : 2. 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
2. L₁, L₂ : 割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
3. L₁ : 小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
4. L₂ : 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
5. フックあり定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分Ⅱを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5 dを加えたものとする。

4. 1 最小かぶり厚さ

(a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。
ただし、柱及び梁の主筋にD 2.9 以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5 倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ（単位：mm）

土に接しない部分	構造部分の種類		最小かぶり厚さ	
	スラブ、 耐力壁以外の壁	仕上げあり 仕上げなし		
		柱、梁、耐力壁		
		屋内	仕上げあり 仕上げなし	30 30
		屋外	仕上げあり 仕上げなし	30 40
			仕上げあり 仕上げなし	40 40
		土に接する部分	柱、梁、耐力壁	
煙突等高温を受ける部分	基礎、擁壁、耐圧スラブ		* 60	

(注) 1. * 印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は特記による。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上げ塗材、塗装等）のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。
5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

(b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに1 0 mmを加えた数値を標準とする。
(c) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
(d) 鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。

(1) 粗骨材の最大寸法の1.25 倍
(2) 2 5 mm
(3) 隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）1.5 倍

図4.1 鉄筋相互のあき

(e) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは（d）による。
(f) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは（c）による。

図3.2 直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

(2) 梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、図3.3により、次の（i）,（ii）及び（iii）をすべて満足するものとする。
(i) 全長は表3.3に示す直線定着の長さ以上
(ii) 余長は8 d 以上
(iii) 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さは表3.4に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4 倍以上とする。

図3.3 折曲げ定着の方法

表3.4 鉄筋の投影定着長さ

(注) 1. L₁ : 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
2. L₂ : 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5 dを加えたものとする。

(3) 溶接金網の継手及び定着は、図3.4による。
なお、L₁ 及び L₂ は表3.3の（注）による。

図3.4 溶接金網の継手及び定着

(4) スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による。

図3.5 スパイラル筋の継手及び定着

構造設計担当：一級建築士事務所広島県知事登録第16(1)1512号 株式会社 坂田建設工学研究所
一級建築士大臣登録第 335069 号 / 構造設計一級建築士第 9344 号 坂田重彦

TITLE 潮温泉施設建設工事

配筋標準図（1）

S=1:----

株式会社 沖本初建築設計事務所

No. S-02 (E)

一級建築士大臣登録第103472号 沖 本 初

一級建築士事務所広島県知事登録 16(1)第0241号

[A1版：原図 → A3版：50%縮小]

OKI.AA
HOKIMOTO ARCHITECTS & ASSOCIATES
2-21-404 Tsurumi-cho Naka-ku Hiroshima, 730-0045, Japan

7.1 大梁 (a) 一般事項 (1) 梁の上がり下がりは、FLを基準とした寸法値とする。 (2) 地中梁下の砂利地床厚さ及び捨コンクリート地床厚さは、特記による。 (3) 打増し部分に、スラブ、壁、梁筋等が取り付く場合は、スラブ、壁、梁筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。 (b) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項 (1) 継手中心位置は、次による。 上端筋：中央 $l/2$以内 下端筋：柱面より梁せい(D)以上離し、$l/4$を加えた範囲以内 (2) 継手中央部の位置、定着長さ及び余長は、図7.3及び図7.4による。 (3) 梁主筋は、連続端で柱に接する梁の主筋が同数の時は、柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図7.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では折り曲げて定着する。 図7.1 梁主筋の梁内定着 (4) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。 なお、定着の方法は、3.1(b)(2)による。 上端筋：曲げ降ろす。 下端筋(一般)：原則、曲げ上げる。 下端筋(ハンチ付き)：原則、曲げ上げる。 (5) 梁にハンチを付ける場合、その傾斜は特記による。 (6) 段違い梁は、図7.2による。 図7.2 段違い梁 (c) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.3による。 図7.3 大梁の重ね継手、定着及び余長	(d) ハンチのある場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.4による。 図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長
--	--

7.2 あばら筋等

(a) あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項

(1) あばら筋の種類、径及び間隔は、特記による。

(2) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは図7.6による。

ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さ及び定着長さは、特記による。

(3) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10～1,000@程度とする。

(b) あばら筋組立の形及びフックの位置

(1) 形は、図7.5(イ)とする。

ただし、L形梁の場合は、(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)～(ニ)とすることができる。

(2) フックの位置

Ⅰ.(イ)の場合は、交互とする。

Ⅱ.(ロ)の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。

Ⅲ.(ハ)の場合は、床板の付く側を90°折曲げとする。

図7.5 あばら筋組立の形

(c) あばら筋の割付け

(1) 間隔が一樣でハンチのない場合は、図7.6による。

図7.6 あばら筋の割付け (その1)

(2) 間隔が一樣でハンチがある場合は、図7.7による。

図7.7 あばら筋の割付け (その2)

(3) 梁の端部で間隔の異なる場合は、図7.8による。

図7.8 あばら筋の割付け (その3)

構造設計担当：一般建築士事務所広島県知事登録第16(1)5152号 株式会社「坂田建設工学研究所」
一般建築士大臣登録第 335068 号 / 構造設計一般建築士第 9344 号 坂田直彦

TITLE 潮温泉施設建設工事

配筋標準図(3)

株式会社 片本初建築設計事務所

No. S-04 (E)

一般建築士大臣登録第103472号 沖 本 初

一般建築士事務所広島県知事登録 16(1)第0241号

[A1版:原図 → A3版:50%縮小]

OKI.AA
HOKIMOTO ARCHITECTS & ASSOCIATES
2-21-404 Tsurumi cho Naka ku Hiroshima 730-0045 Japan

8.2 壁の補強

(a) 壁開口部の補強

(1) 耐震壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表8.3、B形は表8.4とし、適用は特記による。
なお、耐震壁の補強筋は、特記による。

表8.3 壁開口部補強筋（A形）

壁の種類	補強筋	
	縦横	斜め
W12、W15	1-D13	1-D13
W18、W20	2-D13	2-D13

表8.4 壁開口部補強筋（B形）

壁の種類	補強筋	
	縦横	斜め
W12、W15	2-D13	1-D13
W18、W20	4-D13	2-D13

(2) 壁開口部補強筋の定着長さは図8.3による。

図8.3 壁開口部補強筋の定着長さ

(3) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記による。

9.1 スラブ

(1) スラブ及び土間コンクリートの上がり下がり、FLを基準とした寸法値とする。

(2) 土間スラブ下の砂利地床厚さ及び捨てコンクリート厚は、特記による。

(3) 土間コンクリート補強筋（Do）の配筋及びコンクリート厚さは、特記による。

(4) スラブの配筋（S形配筋）は表9.1及び図9.1により、配筋種別及びスラブ厚さは、特記による。

表9.1 S形配筋

配筋種別	短辺方向（主筋） 全域	長辺方向（配力筋） 全域	配筋種別	短辺方向（主筋） 全域	長辺方向（配力筋） 全域
S 1	D13-100#	D13-100#	S 8	D10、D13-150#	D10-150#
S 2	同上	D13-150#	S 9	同上	D10-200#
S 3	同上	D10、D13-150#	S10	D10、D13-200#	D10、D13-200#
S 4	D13-150#	D13-150#	S11	同上	D10-200#
S 5	同上	D10、D13-150#	S12	同上	D10-250#
S 6	同上	D13-150#	S13	D10-200#	D10-200#
S 7	D10、D13-150#	D10、D13-150#	S14	同上	D10-250#

(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。

図9.1 スラブの配筋

(5) 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。

(6) 鉄筋の重ね継手長さは、L_vとする。

9.2 片持スラブ

片持スラブの配筋は、次による。

(1) 片持スラブの配筋（CS形配筋）は、表9.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別及びスラブ厚さは、特記による。

表9.2 CS形配筋

配筋種別	主筋		配筋種別	主筋	
CS1	上	D13-100#	CS5	上	D10-200#
	下	D13-200#		下	D10-400#
CS2	上	D13-150#	CS6	上	D10、D13-200#
	下	D13-300#		下	――
CS3	上	D10、D13-150#	CS7	上	D10-200#
	下	D10、D13-300#		下	――
CS4	上	D10、D13-200#			
	下	D10-200#			

図9.4 片持スラブの配筋（CS1 から CS5）

図9.5 片持スラブの配筋（CS6 及び CS7）

9.3 スラブ等の補強

(a) スラブ開口部の補強

スラブ開口部の補強は、特記による。

(i) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合は、図9.8により、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13（t≧2L_v）シングルの上下筋の内側に配筋する。

図9.8 スラブ開口部の補強配筋

(ii) スラブの開口の最大径が同方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

(b) 屋根スラブの補強

屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図9.9により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

図9.9 出隅及び入隅部の補強配筋

(c) 土間スラブの打継ぎ補強

基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、図9.10による。

ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。

図9.10 打継ぎ補強配筋

(d) 土間コンクリート補強

土間コンクリートの補強筋は、特記による。

なお、基礎梁との接合部は図9.11による。

図9.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

10.1 片持スラブ形階段

片持スラブ形階段の基準配筋は、表10.1及び図10.1により、寸法及び配筋種別は、特記による。

表10.1 片持スラブ形階段の配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
配筋種別	KA3	KA4
配筋図		

図10.1 片持スラブ形階段配筋の定着

(注) 1. 片持スラブ形階段を受ける壁配筋は、8.1(c)による。

2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから敷に下ろす。

3. スラブ配力筋の継手及び定着の長さは、表3.3「鉄筋の定着長さ」のL_vとする。

構造設計担当：一般建築士事務所所広島重知事登録第16(1)5152号 株式会社 坂田建築工学研究所
一般建築士大臣登録第 335068 号 / 構造設計一般建築士第 9344 号 坂田重彦

TITLE 潮温泉施設建設工事

配筋標準図（4）

株式会社 沖本初建築設計事務所

一般建築士大臣登録第103472号 沖 本 初

一般建築士事務所所広島県知事登録 16(1)第0241号

S=1:――

S-05（E）

No.

[A1版：原図 → A3版：50%縮小]

OKI.AA

HOKIMOTO ARCHITECTS & ASSOCIATES

2-21-404 Tsurumi cho Naka ku Hiroshima 730-0045, Japan

10.2 二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段の基準配筋は、表10.2並びに図10.2及び図10.3により、寸法及び配筋種別は、特記による。

表10.2 二辺固定スラブ形配筋	
配筋種別	上端筋、下端筋とも(全域)
KB1	D13-200#
KB2	D13-150#
KB3	D13-100#
KB4	D13, D16-150#
KB5	D16-150#
KB6	D16-125#
KB7	D16-100#

図10.2 二辺固定スラブ形階段配筋(その1)

図10.3 二辺固定スラブ形階段配筋(その2)

(注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

(a) 梁貫通孔は、次による。
(1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図11.1による。
(2) 孔の径は、梁せいの1/3以下とする。
(3) 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3 (Dは梁せい) の範囲には設けてはならない。
(4) 孔は、柱面から、原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
(5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
(6) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
(7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11.2による。
(8) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げるにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
(9) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
(10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。
なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
(11) 溶接金網の割付け始点は、横筋であればら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

図11.1 梁貫通孔補強筋の名称等

図11.2 補強筋の定着長さ

図11.3 他の開孔を設けない範囲

(b) 梁貫通孔の補強形式は表11.1～表11.3により、配筋種別は特記による。

表11.1 H形配筋					
配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

(注) ----- は、一般部分のあばら筋を示す。

表11.2 M形配筋			
配筋種別	縦筋	溶接金網	配筋図
M1	2-2-D13	なし	
M2	4-2-D13		
M3	4-2-D13	2-6φ-100#	
M4	6-2-D13		

(注) ----- は、一般部分のあばら筋を示す。

表11.3 M形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	
MH2		2-2-D13		
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100#	
MH4	4-2-D13			
MH5	4-2-D16			
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100#	
MH7	4-2-D19			

(注) ----- は、一般部分のあばら筋を示す。

11.2 コンクリートブロック横壁との取合い

(a) 控壁は、次による。
(1) 控壁の配筋図、特記による。
(2) 配筋は、図11.4による。

図11.4 控壁の配筋(水平、垂直とも)

(b) 横壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図11.5による。

図11.5 壁付き土間コンクリートの補強配筋

11.3 バラベット

バラベットの配筋は図11.6による。
コンクリート厚さ、縦筋は特記による。

図11.6 バラベットの配筋

構造設計担当：一級建築士事務所所長島根知事登録第16(1)1512号 株式会社 坂田建築工学研究所
一級建築士大臣登録第 335068 号 / 構造設計一級建築士第 9344 号 坂田直彦

TITLE 潮温泉施設建設工事

配筋標準図（5）

S=1:----

株式会社 沖本初建築設計事務所

No. S-06 (E)

一級建築士大臣登録第103472号 沖 本 初

一級建築士事務所所長島根知事登録 16(1)第0241号

[A1版:原図 → A3版:50%縮小]

OKI.AA
HOKIMOTO ARCHITECTS & ASSOCIATES
2-21-404 Tsurumi-cho Naka-ku Hiroshima, 730-0045, Japan

構造関係共通図（鉄骨標準図）

1. 1 縁端距離及びボルト間隔等

(a) 縁端距離及びボルト間隔

縁端距離及びボルト間隔は、表1. 1による。

ただし、引張材の接合部分において、せん断力を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の縁端距離は、特記による。特記がなければ、ボルト軸径の2.5倍以上とする。

また、アンカーボルトの縁端距離は特記による。

表1. 1 縁端距離及びボルト間隔 (単位: mm)		
ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12	40	60
M16		
M20		
M22		
M24	45	70

p

p

e

(b) 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔

千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1. 2による。

表1. 2 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔 (単位: mm)		
ゲージ ねじの呼び	千鳥打ちのボルト間隔 Pt	
	M12, M16, M20, M22	M24
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	—	40

Pt

g

(c) 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表1. 3による。

表1. 3 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径 (単位: mm)										
A				B				C		
A又はB	g ₁	g ₂	最大軸径	B	g ₁	g ₂	最大軸径	B	g ₁	最大軸径
45	25		12	100	56		16	50	30	12
50	28		16	125	75		16	65	35	20
60	35		16	150	90		22	70	40	20
65	35		20	175	105		22	75	40	22
70	40		20	200	120		24	80	45	22
75	40		22	250	150		24	90	50	24
80	45		22	300	150	40 ^{※1}	24	100	55	24
90	50		24	350	140	70	24			
100	55		24	400	140	90	24			
125	50	35	24	※1 千鳥打ちとした場合						
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

1. 2 溶接継手の種類別開先標準

突合せ継手の開先標準 (単位: mm)

被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接 H (及びセルフシールドアーク溶接)				A (サブマージアーク自動溶接)			
1 (片面溶接)		2 (両面溶接)		1 (片面溶接)		2 (両面溶接)	
t ≤ 6				t ≤ 12			
G = t							
6 < t ≤ 19				12 < t ≤ 22			
19 < t ≤ 40				22 < t ≤ 40			
D1 = 2 (t - 2) / 3 D2 = (t - 2) / 3				D1 = (t - 6) / 2 D2 = (t - 6) / 2			

T型継手の開先標準 (単位: mm)

被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接 H (及びセルフシールドアーク溶接)				A (サブマージアーク自動溶接)			
1 (片面溶接)		2 (両面溶接)		1 (片面溶接)		2 (両面溶接)	
t ≤ 6				t ≤ 12			
6 < t ≤ 19				12 < t ≤ 22			
19 < t ≤ 40				22 < t ≤ 40			
D1 = 2 (t - 2) / 3 D2 = (t - 2) / 3				D1 = (t - 6) / 2 D2 = (t - 6) / 2			

隅肉溶接の開先標準 (単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)																				
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)																			
t ≤ 16	t ≤ 16	16 < t ≤ 40																		
隅肉溶接のサイズ (単位: mm)																				
t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24

隅肉溶接のサイズ (単位: mm)

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24

部分溶込み溶接の開先標準 (単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)									
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)								
12 ≤ t ≤ 40	16 ≤ t ≤ 40								
部分溶込み溶接の開先標準 (単位: mm)									
t	12	16	19	22	25	28	32	36	40
D	10	11	12	13	13	14	15	15	16
1/4 t ≤ S ≤ 10									

フレア溶接の開先標準 (単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)			
1 (丸鋼等片面溶接)	2 (丸鋼等両面溶接)	3 (軽量形鋼V形溶接)	4 (軽量形鋼レ形溶接)
フレア溶接の開先標準 (単位: mm)			
d/2	d/2	d/2	d/2
d	d	d	d
t ≥ 3のときS = t t < 3のときS = 3			

1. 3 鋼管分岐継手詳細 (単位: mm)

自動機械により開先加工を行う場合はその限りではない。

適用管厚 3.2mm ≤ t ≤ 12mm

交角 30° ≤ θ ≤ 150°

D-D断面図
主管の管軸と支管の管軸とは一致させること。

A部断面 B部断面 C部断面

1. 4 鉄骨溶接施工

(a) フィラープレートの鋼材種別は、SS400とする。

(b) エンドタブ
(1) エンドタブの形状は母材と同厚、同開先のものとする。
(2) エンドタブ・雲当て金・スプライスプレートの鋼材の種別及び引張強さによる区分は、母材と同等とする。

エンドタブの長さ (単位: mm)

溶接方法	t
手 溶 接	35以上
半自動溶接	38以上
自 動 溶 接	70以上

(c) 裏当て金
裏当て金の溶接
(1) 裏当て金の組立溶接は、接合部に影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い、梁フランジ両端から10mm以内の位置に行ってはならない。
(2) 完全溶込み位置溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内側に設置する。

裏当て金の厚さ (単位: mm)

溶接方法	t
手 溶 接	6以上
半自動溶接	9以上
自 動 溶 接	12以上

溶接のサイズ (単位: mm)

裏当て金の厚さ	S
t ≤ 9	5
t > 9	9

(d) スカラップ
改良型スカラップ
(1) スカラップ半径 Sr は35mmとする。Sr は10mmとする。
(2) スカラップ円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。

従来型スカラップ
スカラップ半径Srは35mmとする。

(e) スニップカット
(1) スニップカット部は溶接により埋めるものとする。

スニップカットの寸法 (単位: mm)

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

ただし、既製形鋼のスニップカットについては、Sc=r+2により求めるものとする。

(f) 溶接部分の段差
(1) 完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段違いが10mmを超える場合
1/2.5以下

構造設計担当：一般建築士事務所所長島原知事登録第16(1)5162号 株式会社 坂田建設工学研究所
一般建築士大臣登録第 335066 号 / 構造設計一般建築士第 9344 号 坂田直彦

TITLE 潮温泉施設建設工事

鉄骨標準図 (1)

株式会社 沖本初建築設計事務所

一般建築士大臣登録第103472号 沖 本 初

一般建築士事務所所長島原知事登録 16(1)第0241号

S=1:----

No. S-07 (E)

OKI.AA

HOKIMOTO ARCHITECTS & ASSOCIATES

2-21-404 Tsurumi cho Naka ku Hiroshima 730-0045, Japan

[A1版: 原図 → A3版: 50%縮小]

(g) 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件

鋼材の種類	規格	溶接材料	入熱 (kJ/cm)	バス間温度 (℃)
400N級鋼	JIS Z 3211	引張強さ570Mpa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-11, 15 YGW-18, 19	40以下 30以下	350以下 450以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40以下	350以下
			30以下	450以下
			40以下	350以下
	JIS Z 3214	引張強さ570N/mm以上のものを除く	40以下	350以下
490N級鋼	JIS Z 3211	引張強さ570Mpa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-11, 15 YGW-18, 19	30以下 40以下	250以下 350以下
		T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下
	JIS Z 3313		40以下	350以下
			40以下	350以下
			40以下	350以下
520N級鋼	JIS Z 3312	YGW-18, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下
400N級鋼STKR, BCR及びBCP	JIS Z 3312	YGW-11, 15 YGW-18, 19	30以下 40以下	250以下 350以下
		T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下
	JIS Z 3313		40以下	350以下
			40以下	350以下
490N級鋼STKR, 及びBCP	JIS Z 3312	YGW-18, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下

1. 5 フレア溶接を行う場合の溶接長さ

- (a) 鉄筋又は軽量形鋼にフレア溶接を行う場合は下記による。
(b) 有効溶接長さ (L) は、ビートの始点 (La) 及びクレーター (Lb) を除いた長さとする。

L : 片面フレア溶接の場合 10d
両面フレア溶接の場合 5d
L a 及び L b = 1 S (鉄筋については1d)
d : 異形鉄筋の呼び名に用いた数値
S : 溶接のサイズ

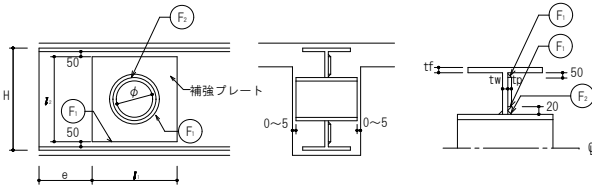


1. 6 梁貫通孔補強

- (a) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部材に貫通孔を設ける場合で貫通孔部分を補強する場合に適用する。
(b) 貫通孔の内径寸法は、鉄骨せいの1/2以下、かつ、鉄筋コンクリート梁せいの1/3以下とする。
(c) 貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で3倍以上確保する。

補強プレート法

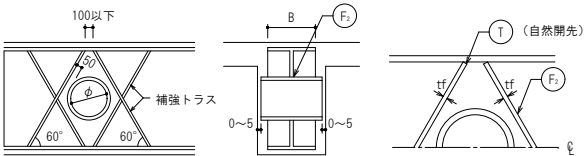
- (1) 補強プレートが16mm以上となる場合は、必要な長さの1/2以上の補強プレートをウェブ両面から溶接する。
(2) 補強プレートは丸型としても良い。上下フランジとのあき50mmについては施工性を考慮して小さくすることもできる。



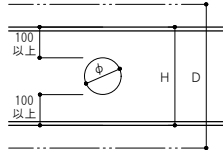
l は 3 φ 又は l のうち小さい方とする。 (e ≧ H とする)

補強トラス法

- (1) スリーブの取付けは、全周隅肉溶接とする。



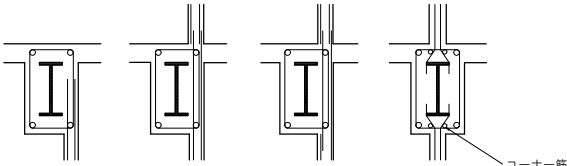
梁貫通孔の位置の限度 (単位: mm)



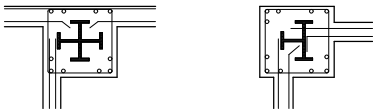
H : 鉄骨せい
D : 梁せい
φ : 貫通孔内径寸法
(φ ≦ H/2, かつ, φ ≦ D/3)

1. 7 壁筋の周辺部材への定着

鉄筋を折り曲げる場合は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上直線に定着後、緩やかに折り曲げる。



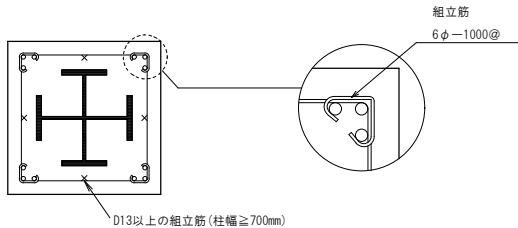
梁への定着方法



柱への定着方法

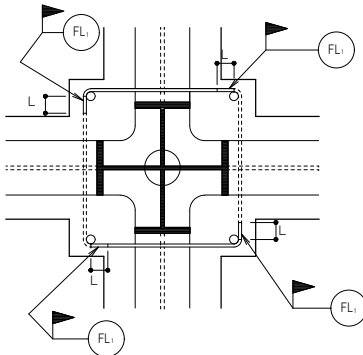
1. 8 柱組立筋

柱組立筋



1. 9 仕口部内の帯筋の加工及び組立

方面溶接の有効長さ (L) は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上とする。ただし、溶接によらない場合は135° 曲げフックとする。



1. 10 鉄筋貫通孔の径及び位置

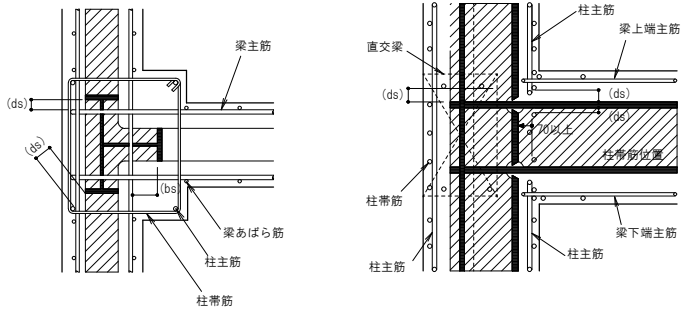
鉄筋貫通孔の径

鉄筋の貫通孔径の最大は、下表による。

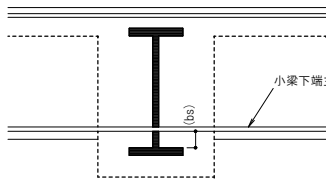
鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
鉄筋貫通孔の径	21	24	28	31	35	38	43	46

鉄筋貫通孔の位置 (単位: mm)

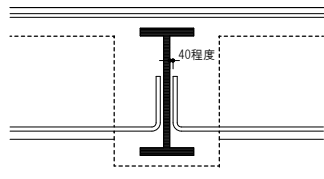
鉄骨フランジは、鉄筋貫通孔を設けないものとする。



小梁下端主筋が貫通する場合



小梁下端主筋が貫通しない場合 (単位: mm)



(bs) : 主筋と平行する鉄骨とのあき

1. 11 広幅平鋼の取扱い

- (1) BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スプラインプレートは、PL表記であってもFB又はPLとする。
(2) BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スプラインプレートの適用幅及び厚さは下表による。

		厚さ										
		6	9	12	16	19	22	25	28	32	36	40
幅	100	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	125	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	175	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	200	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	250	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	300		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	350		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	400		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	450					○	○	○	○	○	○	○
500					○	○	○	○	○	○	○	

1. 12 普通ボルト接合

もや、胴縁類の取付け用ボルトを普通ボルト結合とする場合は、二重ナットとする。

CONスリット標準仕様書

同等品

(1) 適用範囲・特記事項

- ・本仕様書は、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造の内、壁の完全貫通スリット（CONスリット）工事に適用する。
- ・本仕様書に特記無き事項は、設計図書、設計者及び係員の指示による。
- ・高位の耐火仕様については、設計図書、設計者及び係員の指示による。
- ・スリット材の施工については、設計者及び係員の承諾を得る事。
- ・打ち継目地による大梁断面欠損等については、設計者及び係員に確認の事。

(2) 準拠する規基準

- 建築基準法・同施行令
- 2007年版建築物の構造関係技術基準解説書（日本建築センター）
- 鉄筋コンクリート構造計算規程・同解説（日本建築学会）
- 建築物の遮音性能基準と設計指針（日本建築学会）
- 建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事（日本建築学会）
- 建築工事標準仕様書・同解説 JASS8 防水工事（日本建築学会）
- 構造スリット施工管理マニュアル（建設業協会）

(3) 使用材料

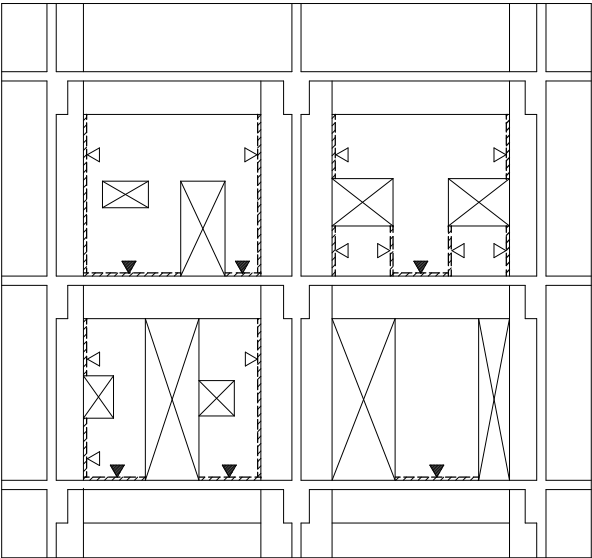
- 垂直スリット 枠材 硬質塩化ビニル
- 芯材 炭酸カルシウム発泡体
- 水平スリット 側材 ポリエチレン発泡体
- 耐火材 ロックウール

(4) 設計仕様

- ・スリットの位置は、設計図の明記。
 - 伏図 ■ 軸組図
- ・厚さの決定
 - ☐ 梁下有効高さ（h）の 1/200
 - ☐ 梁下有効高さ（h）の 1/100
 - ☐ 梁下有効高さ（h）の 1/75
 - その他（25mm以上）▷ 鉛直スリット 2F・3F 25 mm
 - 1F 宿泊棟 25 mm(高さ1500未満の壁際)
 - 50 mm(高さ3100以下の壁際)
 - 55 mm(高さ3100を超える壁際)
 - 1F 温浴棟 25 mm

▼ 水平スリット 25 mm

・CONスリット使用例（ 部分）



(5) 検査

- 検査報告： 報告書作成 ☒ 要 ☐ 不要
- 写真添付 ☒ 要 ☐ 不要
- 検査方法： ☒ 目視 ☒ 計測
- 検査箇所数： ☒ 全箇所 ☐ 任意抽出（総箇所数の（ ）%以上）
- 取付時検査項目：
 - 型式： ☒ 完全スリット（ ☒ 貫通型垂直 ☒ 水平）
 - 形状： ☒ D（厚さ） ☒ W（幅）
 - 位置： ☒ 使用部位 ☒ 取付状態
 - 仕様： ☒ 耐火 ☒ 防水
 - 配筋： ☒ 要（目視） ☐ 不要
- 打設後検査項目：
 - 施工状況： ☒ 位置 ☒ 曲がり

(6) スリット仕様（垂直スリットと水平スリットは同厚を原則とする。）

- ・垂直スリット
 - 使用タイプ： ☐ KMTタイプ ☒ KMGタイプ
 - D（厚さ）： ☒ 25 ☐ 30 ☐ 35 ☐ 40 ☒ 55
 - 耐火仕様： ☒ 標準（1時間耐火以上） ☐ （ ）
 - 防水仕様ﾌｨﾙﾂﾞｰ: ☒ 有 ☐ 無
 - 振れ止め鉄筋径： ☐ D10 ☒ D13 ☐ D（ ） ☐ 無し
 - ピッチ： ☐ @200 ☐ @300 ☒ @400 ☐ @500
 - ☐ @（ ）
- その他： ☒ スリット使用時、ジョイント部及び端部に非加硫ブチルゴム系シーラント（ KJ-3000 ）使用する。

- ・水平スリット
 - 使用タイプ： ☒ KMLタイプ ☐ KMLタイプーC面カット
 - D（厚さ）： ☒ 25 ☐ 30 ☐ 35 ☐ （ ）
 - 耐火仕様： ☒ 標準（1時間耐火以上） ☐ （ ）
 - 防水仕様ﾌｨﾙﾂﾞｰ: ☒ 有 ☐ 無
 - 振れ止め鉄筋径： ☐ D10 ☒ D13 ☐ D（ ） ☐ 無し
 - ピッチ： ☐ @200 ☐ @300 ☒ @400 ☐ @500
 - ☐ @（ ）
- 段差形打ち継目地材： ☐ KUN ☒ KUW(水返し付き)

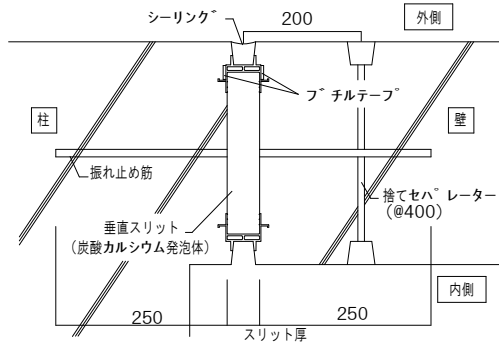
(7) 推奨副資材

- 非加硫ブチルゴム系シーラント（KJ-3000）： ☒ 要 ☐ 不要
- 構造スリット材 保護キャップ（KKSキャップ）： ☒ 要 ☐ 不要
- 振れ止め筋力カバー： ☒ 要 ☐ 不要
- サビ止め振れ止め筋： ☒ D10 L=600
- ☐ Aタイプ：部分サビ止め（中央部100mm）
- ☒ Bタイプ：全サビ止め

(8) スリット詳細

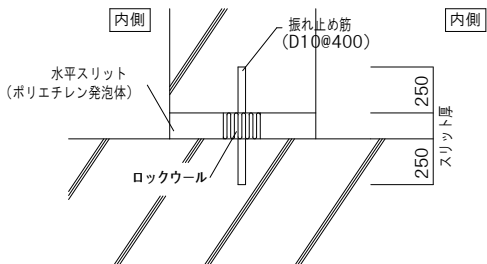
垂直スリット

①自立型：CONスリットKMT タイプ

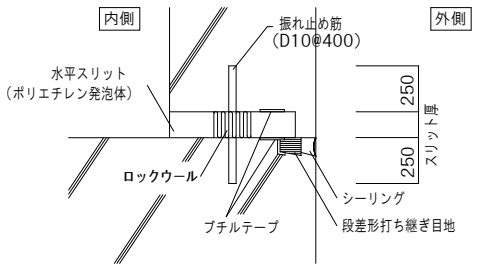


水平スリット：KML タイプ

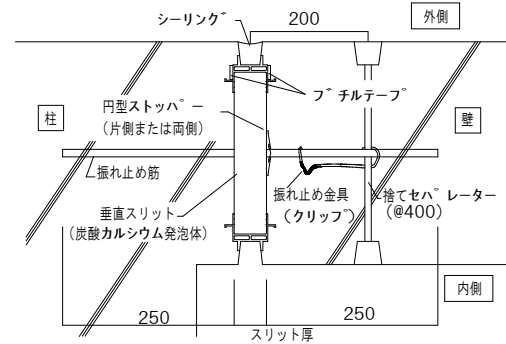
①内壁などで下地処理がある場合の例



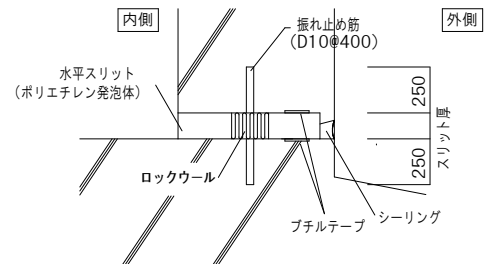
③バルコニー等片持ちスラブが無い場合の例



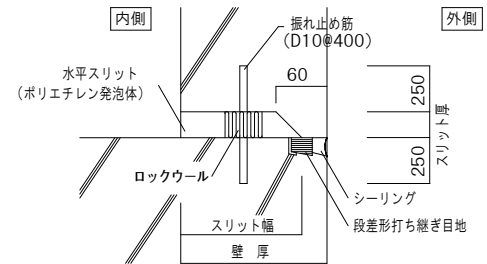
②自立補強型：CONスリットKMG タイプ



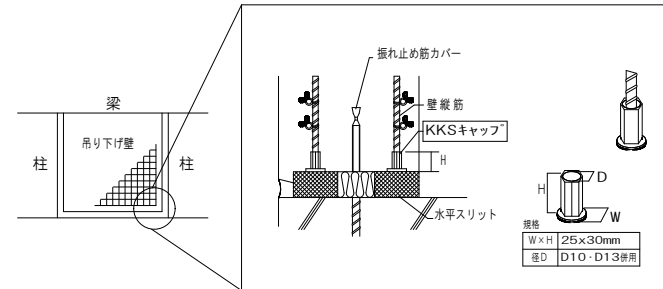
②外壁（バルコニー等の場合）の例



④C面カットの例



構造スリット材保護キャップ（KKSキャップ）と振れ止め筋力カバー（スリット材の破損防止）（二次壁のひび割れ防止）



- ・「KKSキャップ」は、壁縦筋によるスリット材の破損 及び漏水を防止する。また、漏水等による鉄筋のサビを防止し、建築物の耐久性を確保する。
- ・「振れ止め筋力カバー」は、地震時に振れ止め筋にかかる荷重を軽減し、二次壁のひび割れ発生を防止する。

(株) 栗本鐵工所建材事業部	
大阪（本社）	06-6538-7708
東京支社	03-3436-8019
北海道建材営業課	011-661-6781
東北支店	022-227-1646
名古屋支店	052-551-6934
中国支店	082-222-8203
九州支店	092-451-6624

Ver. 0. 1a

ボーリング柱状図

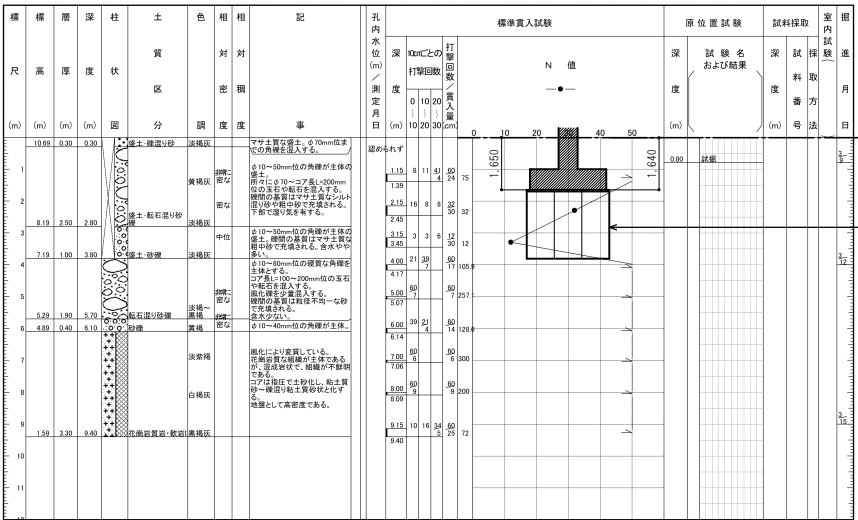
調査名「潮温泉大和荘」建替整備事業 地質調査

事業・工事名

ボーリング№

シート№

ボーリング名	No.1	調査位置	島根県邑智郡美郷町長藤760-1	北緯	° ' "
発注機関	株式会社 沖本初建築設計事務所	調査期間	平成30年3月12日～平成30年3月16日	東経	° ' "
調査業者名	株式会社 東建ジオテック	主任技師	平本 和剛	現場代理人	糸井 秀利
調査者名	株式会社 東建ジオテック	主任技師	平本 和剛	コア鑑定者	糸井 秀利
ボーリング責任者	佐藤 啓生・辰効	試験機	東邦D-1	ハンマー	落下用具
孔口標高	KBM+10.99m	角	180°	方	北
総掘進長	9.00m	度	0°	向	西



株式会社 東建ジオテック

ボーリング柱状図

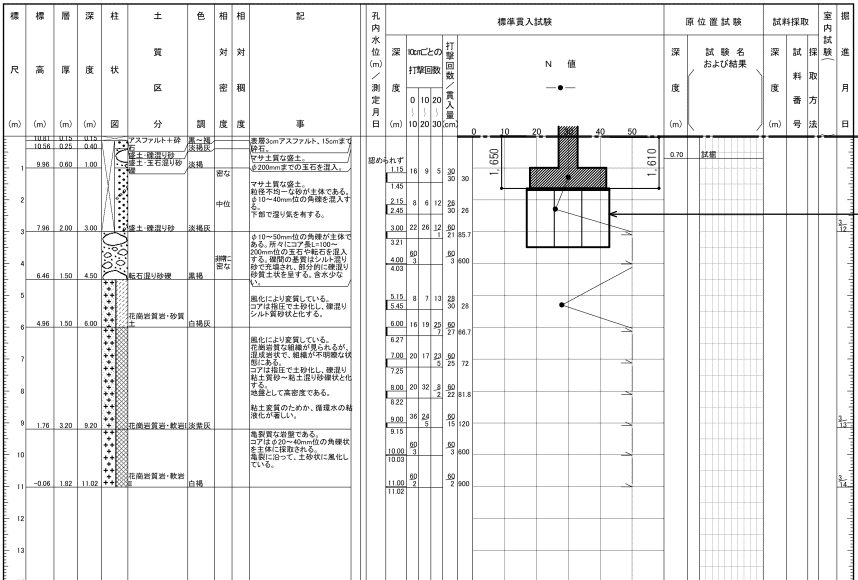
調査名「潮温泉大和荘」建替整備事業 地質調査

事業・工事名

ボーリング№

シート№

ボーリング名	No.2	調査位置	島根県邑智郡美郷町長藤760-1	北緯	° ' "
発注機関	株式会社 沖本初建築設計事務所	調査期間	平成30年3月12日～平成30年3月14日	東経	° ' "
調査業者名	株式会社 東建ジオテック	主任技師	平本 和剛	現場代理人	糸井 秀利
調査者名	株式会社 東建ジオテック	主任技師	平本 和剛	コア鑑定者	糸井 秀利
ボーリング責任者	佐藤 辰効	試験機	東邦D0-C	ハンマー	落下用具
孔口標高	KBM+10.96m	角	180°	方	北
総掘進長	11.00m	度	0°	向	西



株式会社 東建ジオテック

ボーリング柱状図

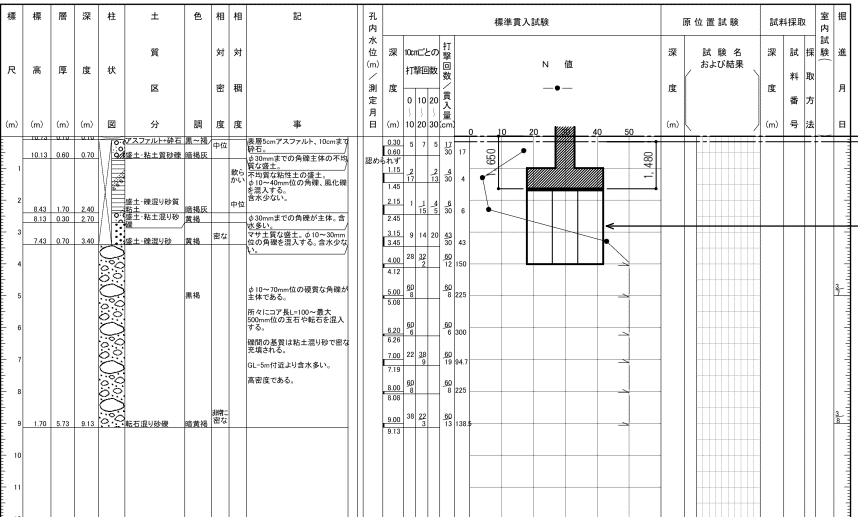
調査名「潮温泉大和荘」建替整備事業 地質調査

事業・工事名

ボーリング№

シート№

ボーリング名	No.3	調査位置	島根県邑智郡美郷町長藤760-1	北緯	° ' "
発注機関	株式会社 沖本初建築設計事務所	調査期間	平成30年3月7日～平成30年3月8日	東経	° ' "
調査業者名	株式会社 東建ジオテック	主任技師	平本 和剛	現場代理人	糸井 秀利
調査者名	株式会社 東建ジオテック	主任技師	平本 和剛	コア鑑定者	糸井 秀利
ボーリング責任者	佐藤 啓生	試験機	東邦D-1	ハンマー	落下用具
孔口標高	KBM+10.83m	角	180°	方	北
総掘進長	9.00m	度	0°	向	西



株式会社 東建ジオテック

構造設計担当：一級建築士事務所所長島根知事登録第16(1)5162号 株式会社 坂田建設工務研究所
一級建築士大匠登録第 335058 号 / 構造設計一級建築士 第 9344 号 坂田啓彦

TITLE 潮温泉施設建設工事

土質柱状図(1)

S=1:---

株式会社 沖本初建築設計事務所

No. S-11 (E)

一級建築士大匠登録第103472号 沖 本 初

一級建築士事務所所長島根知事登録 16(1)第0241号

[A1版：原図 → A3版：50%縮小]

OKI.AA
HOKIMOTO ARCHITECTS & ASSOCIATES
2-21-404 Tsurumi-cho Naka-ku Hiroshima 730-0045, Japan

ボ　ー　リ　ン　グ　柱　状　図

調 查 名 「潮溫泉大和莊」建替整備事業 地質調查

事業・工事名

ボーリングNo. _____
シートNo. _____

ボーリング名	No.4	調査位置 島根県邑智郡美郷町長寿760-1							北 緯		34° 18' 0"
発 注 機 関	株式会社 沖本初建築設計事務所			調査期間		平成30年3月5日～平成30年3月7日			東 経		133° 09' 0"
調 査 者 名	株式会社 東建ジエック 082-299-5661			主任技師 平本和則		現 場 代 理 人		コア 鑑定 者		森井 秀利	ボーリング責任者 佐藤 啓生
孔口標高	KBM+ 10.96m	角 度 上 下 左 右 0° 0' 0"	北緯 34° 18' 0"	東 経 133° 09' 0"	地盤面配 分 度 90°	水平 度 90°	使用機種	エンジン ヤンマ-NFD-10	ハンマー 落下用具 ボンブ	半自動落下	東經BG-3

[illegible]

株式会社 東建ジオテック

ボーリング柱状図

調 查 名 「潮溫泉大和莊」建替整備事業 地質調査

事業・工事名 _____

ボーリングNo.

シートNo.

ボーリング名	No.5	調査位置 黒根色黒智色美郷町長瀬760-1						北緯	°	′	″	
発注機関	株式会社 沖本建設設計事務所			調査期間		平成30年5月8日～平成30年5月10日			東経	°	′	″
調査業者名	株式会社 東洋ジオテック 082-299-5661			主任技師		平本 和則	現代 地 理 人	コ ア 監 定 者	泉 井 秀 利	ボーリング 責任者	加藤 倫明	
孔口標高	KBM+11.29m	傾 角	180° 上 下 0°	方 向	北 0° 270° 90° 東 90° 180° 西	地盤 配 置	東栗0-1	ハンマー 落下用具	半自動巻			
総掘進深	12.00m	傾 角	90°	方 向	北 0° 270° 90° 東 90° 180° 西	使用 機 種	エンジン ヤンマーNFD-10	ハンマー 落下用具	東栗BG-3			

[illegible]

株式会社 東建ジオテック

ボーリング柱状図

調 查 名 「潮溫泉大和莊」建替整備事業 地質調查

事業・工事名 _____

ボーリングNo.

シートNo.

ボーリング名	No.6	調査位置 高級機帯品智美園町長藤760-1										北緯		''												
発注機関	株式会社 沖本建設設計事務所										調査期間				平成30年9月10日～平成30年9月14日				東経		''					
調査業者名	株式会社 東建明 082-299-5661										主任技師		平本和則		現地代理人		糸井秀利		コア鑑定者		糸井秀利		ボーリング責任者		+加藤 隆一	
孔口標高	KBM+ 11.46m				方	北 0° 西 270° 東 0° 南 180°	水準点 傾斜計 傾度 90°	使用設備					ハンマー落下用具		自動鉛筆											
総掘進長さ	14.00m								角度		傾度		エンジン ヤンバ-NFD-10				東邦BO-3									

[illegible]

株式会社 東建ジオテック

深 層 混 合 処 理 （ ソ イ ル セ メ ン ト コ ラ ム ） 工 法 特 記 仕 様 書

1. 工事概要

本工事は、深層混合処理（ソイルセメントコラム）工法による地盤改良地業であり、その工法概要はスラリー状のセメント系固化材を地盤に注入しながら土の共廻り防止翼を装着した攪拌装置を用いて、原地盤土と機械的に混合攪拌し、固化材の化学反応により所要の強度を持つ改良柱体を築造するものである。

2. 一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか、「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針 平成14年11月」（日本建築センター、以下建築センター指針という）による。

3. 特記事項

- (1) コラム径、掘削深度（改良長＋空堀長）、本数、配置は設計図書による。但し、コラム径・長さ・本数・位置及び固化材液の配合等について、土質や地盤状況により変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認の下に変更することができる。
- (2) コラムの設計基準強度 $F_c=1\,650\text{ kN/m}^2$ （品質検査方法は建築センター指針の要領に準拠する）
- (3) 使用する工法は建築技術性能証明（（財）日本建築総合試験所）又は建築技術審査証明（（財）日本建築センター）等によりその性能を証明された工法とする。

4. 施工計画

- (1) 本工事施工業者は、本工法の施工技術に精通したものとする。
- (2) 施工計画
工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

a 地盤概要	h 品質検査の方法
b 工事内容（コラム径、空掘長、改良長、本数、設計基準強度）	i 各種作業の主たる従事者の組織表
c 工事期間及び工程	j 施工記録の方法
d 工事要領（使用固化材・配合・攪拌翼の昇降速度・吐出量等）	k 環境の保全対策
e 施工機器および仮設設備と配置	l 安全対策
f 配合管理の方法	m 建築請負業者の本工事責任者名
g 施工管理の方法	n 本工事施工業者名及び責任者名

5. 施 工

- (1) 基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が出現した場合は別途検討する。
- a 攪拌装置をコラム芯にセットする。
- b 所定の空掘深度まで掘削する。
- c 固化材液を吐出しながら掘進混合攪拌する。
- d 所定深度に到達したら、固化材液の吐出を停止し、先端部練返し（混合攪拌しながら攪拌装置を上昇、下降）をする。
- e 攪拌装置を回転させながら引き上げる。
- (2) 本工事により排土される発生残土は場内処分とする。
- (3) 施工に対して疑義が生じた場合は、ただちに監督員と協議し、その指示を受ける。

6. 施工機器

- (1) 固化材と原位置土を一体のものとして確実に混合攪拌ができ、土の共廻り現象を防止する攪拌装置を用いること。
- (2) 所定の施工管理項目を計測、記録できる管理装置を用いること。
- (3) 改良機本体は、施工仕様を満足する制御機器及び記録計を装備し、自走式とする。
- (4) ミキシングプラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

7. 配合管理

- (1) 固化材液に使用する固化材は、セメント又はセメント系固化材とする。
- (2) 配合強度
変動係数を想定し、9項に規定する抜き取りヶ所数N、合格確率80％とした下表を用いて設定する。
 $Xf=\alpha\cdot F_c$ 【 α ：割り増し係数、 Xf ：配合強度：室内材令28日での管理値（kN/m2）】

変動係数	N	1	2	3	4～6	7～8	9以上
25%	α	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594
30%	α	2.597	2.240	2.095	1.961	1.869	1.792
35%	α	3.160	2.649	2.448	2.265	2.140	2.037

- (3) 固化材液の計画配合
水・固化材比 $W/C=80\%$
固化材添加量 $\alpha n=330\text{ kg/m}^3$

※上記は計画配合値であり、施工前に現地の土を採取し室内配合試験を行い、実施工での配合を決定する。

- (4) 室内配合試験
固化材液の配合（ W/C ）と使用量（添加量）は、室内配合試験の結果に基づいて、現場と室内の強度比を考慮した上、上記の配合強度を満足するように決定する。

8. 施工管理

- (1) 施工の安定性を確保するため下記に示す項目について施工管理する。
- a 形状寸法：鉛直性 改良機本体のオペレーター室内に設置された傾斜計で管理する。
- コラム芯 事前にコラム芯にマークを設ける。コラム芯ずれの管理値は100mm以内とする。
- 改良径 攪拌装置の形状・寸法を記録する。
- b 固化材：材料計量 水、固化材の重量を計測する。
- スラリー比重 比重計（マッドバランス、重量計等）で計測する。
- スラリー吐出量 流量計で計測し記録する。
- c 攪拌混合度：掘進・引き上げ速度 速度計で計測し記録する
- 攪拌装置 掘削翼、攪拌翼の枚数等。
- d 支持地盤：掘進速度 速度計で計測し記録する。
- オーガー抵抗値 電流計またはトルク計で計測し記録する。
- 掘進速度、オーガー抵抗値の推移を参考に管理する。

9. 品質検査

- (1) 検査対象層及び調査ヶ所数、一軸圧縮試験
- a 調査箇所数は頭部コア、深部コアともにコラム概ね100本につき1本のコラムから採取を基本とする。
- b 検査対象層は「盛土」層の単一層であるので、設計対象層を同層とする。
- c 調査ヶ所数（宿泊棟：285本、温浴棟：132本より）
- ① 頭部コア：5ヶ所（宿泊棟：コラム3本、温浴棟：コラム2本の頭部よりモールドコアにより採取する）
- ② 深部コア：9ヶ所（宿泊棟：コラム3本の深度方向に、上部、中部、下部の3深度よりモールドコアを採取する）
- ③ 深部コア：4ヶ所（温浴棟：コラム2本の深度方向に、上部、下部の2深度よりモールドコアを採取する）
- d 採取したコアを整形し、所定の材令にて一軸圧縮試験を行う。（供試体個数＝3個／ヶ所）
- ① 頭部コア：5ヶ所（採取したコアの端部を切断整形し、供試体を作製するー供試体個数：5ヶ所×3個＝15個）
- ② 深部コア：13ヶ所（採取したコアの端部を切断整形し、供試体を作製するー供試体個数：13ヶ所×3個＝39個）
- (2) 可否の判定
- a 検査手法はAを適用する。
- b 設計対象層についての抜き取りヶ所数をNとする。1ヶ所あたりは3個の供試体を採取し、その平均強度をそのヶ所の強度とする。
- c 一軸圧縮試験は第三者機関あるいは検査員立会の下に行うものとする。
- d 可否の判定は設計対象層におけるNヶ所（抜き取りヶ所）の一軸圧縮試験結果が下式を満足する場合を合格と判定する。
- $$XN > XL=F_c+ka\cdot\sigma_d$$
$$XN: Nヶ所の一軸圧縮強度の平均値\text{ (kN/m}^2\text{)}\qquad\qquad\qquad\sigma_d: \text{標準偏差 (kN/m}^2\text{)}=V\cdot q_{ud}$$
$$XL: \text{合格判定値＝管理値 (kN/m}^2\text{)}\qquad\qquad\qquad V: \text{変動係数 (品質確認書による)}$$
$$F_c: \text{設計基準強度 (kN/m}^2\text{)}\qquad\qquad\qquad q_{ud}: \text{想定した平均一軸圧縮強さ (kN/m}^2\text{)}$$
$$ka: \text{合格判定係数}\qquad\qquad\qquad q_{ud}=F_c/(1-1.3\cdot V)$$

合格判定係数							
抜き取りヶ所数	N	1	2	3	4～6	7～8	9以上
合格判定係数	ka	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

10. 報 告

工事完了後、次の事項について報告書をまとめ、3部監督員に提出する。

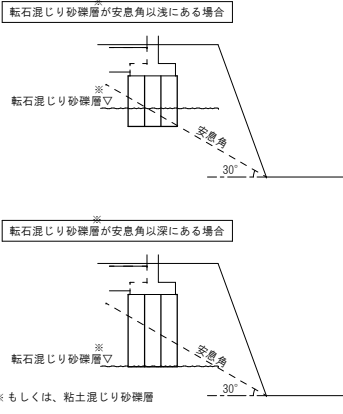
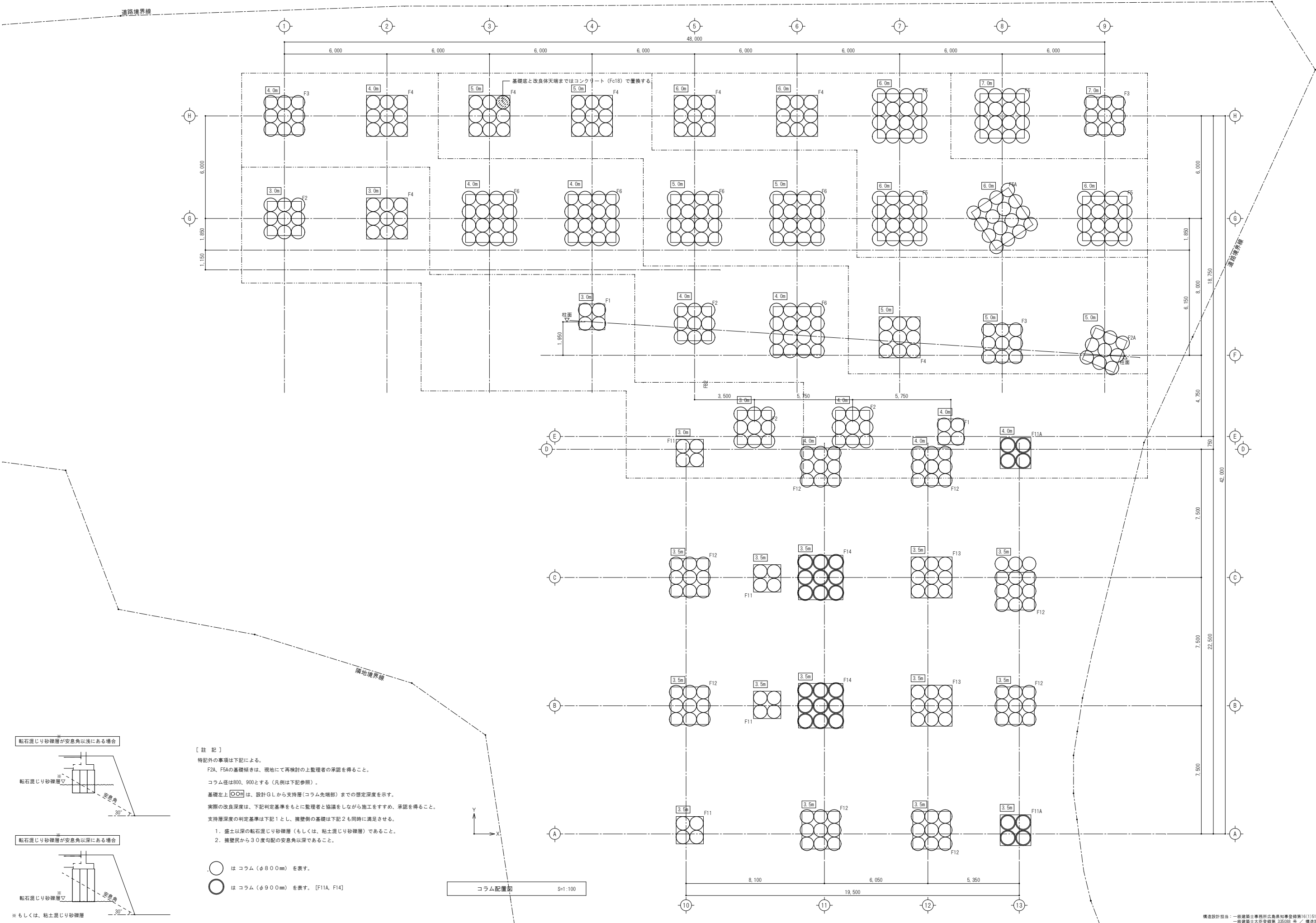
- a コラムの付図及び番号
- e 固化材液の配合と使用量
- b コラムの施工日
- f コア供試体の強度管理試験結果
- c コラムの径及び掘削深度
- g コア採取率調査結果
- d 掘進および引き上げ速度
- h 合格判定結果

11. そ の 他

本施工前に室内配合試験時の供試体を用いて六価クロム溶出試験を実施し、溶出量が環境庁告示第46号の土質環境基準値（0.05mg/ℓ）以下であることを確認する。

試験方法、試験個数等に関しては、平成13年4月20日付国官技第16号国営建第1号「セメントおよびセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要綱(案)の一部変更について」による。

※）本工事における試験種別および個数： 配合設計の段階で実施する溶出試験 検体数 1



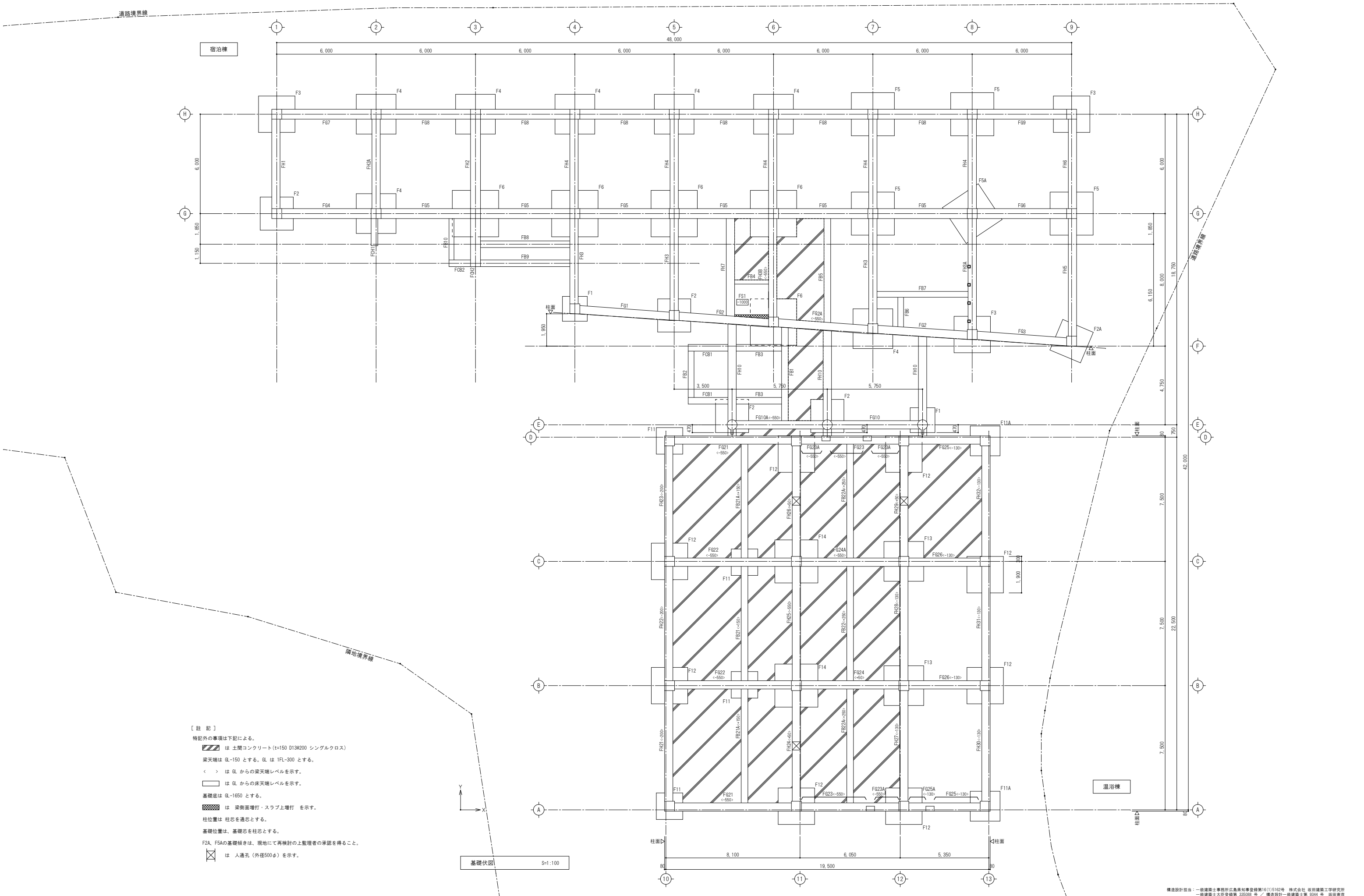
〔 注 記 〕
特記外の事項は下記による。
F2A、F5Aの基礎横きは、現地にて再検討の上監督者の承認を得ること。
コラム径は800、900とする（凡例は下記参照）。
基礎左上「」は、設計G.L.から支持層（コラム先端部）までの想定深度を示す。
実際の改良深度は、下記判定基準をもとに監理者と協議をしながら施工をすすめ、承認を得ること。
支持層深度の判定基準は下記1とし、擁壁側の基礎は下記2も同時に満足させる。
1. 盛土以深の転石混じり砂礫層（もしくは、粘土混じり砂礫層）であること。
2. 擁壁底から30度勾配の安息角以深であること。

 はコラム（φ800mm）を表す。
 はコラム（φ900mm）を表す。[F11A、F14]

コラム配置図 S=1:100

TITLE 潮温泉施設建設工事
コラム配置図 S=1:100

株式会社 沖本初建築設計事務所 No. S-14 (E)
一級建築士大臣登録第103472号 沖 本 初
一級建築士事務所広島県知事登録 16(1)第0241号 [A1版:原図 → A3版:50%縮小]



【 註 記 】

特記外の事項は下記による。

は 土間コンクリート (t=150 D13#200 シングルクロス)

梁天端は GL-150 とする。GL は 1FL-300 とする。

< > は GL からの梁天端レベルを示す。

は GL からの床天端レベルを示す。

基礎底は GL-1650 とする。

は 梁側面増打・スラブ上増打 を示す。

柱位置は 柱芯を通芯とする。

基礎位置は、基礎芯を柱芯とする。

F2A、F5Aの基礎積きは、現地にて再検討の上監理者の承認を得ること。

は 入通孔 (外径500φ) を示す。

基礎伏図 S=1:100

構造設計担当：一級建築士事務所広島和事登録第16(1)5162号 株式会社 坂田建築工学研究所
一級建築士大臣登録第 335088 号 / 構造設計一級建築士第 9344 号 坂田善彦

TITLE 潮温泉施設建設工事

基礎伏図 S=1:100

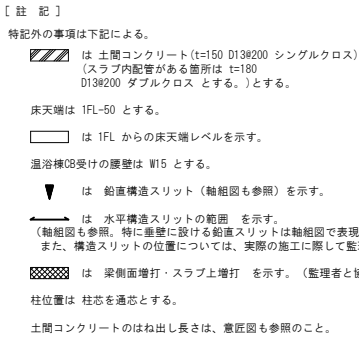
株式会社 沖本初建築設計事務所 No. S-15 (E)

一級建築士大臣登録第103472号 沖 本 初

一級建築士事務所広島和事登録 16(1)第0241号

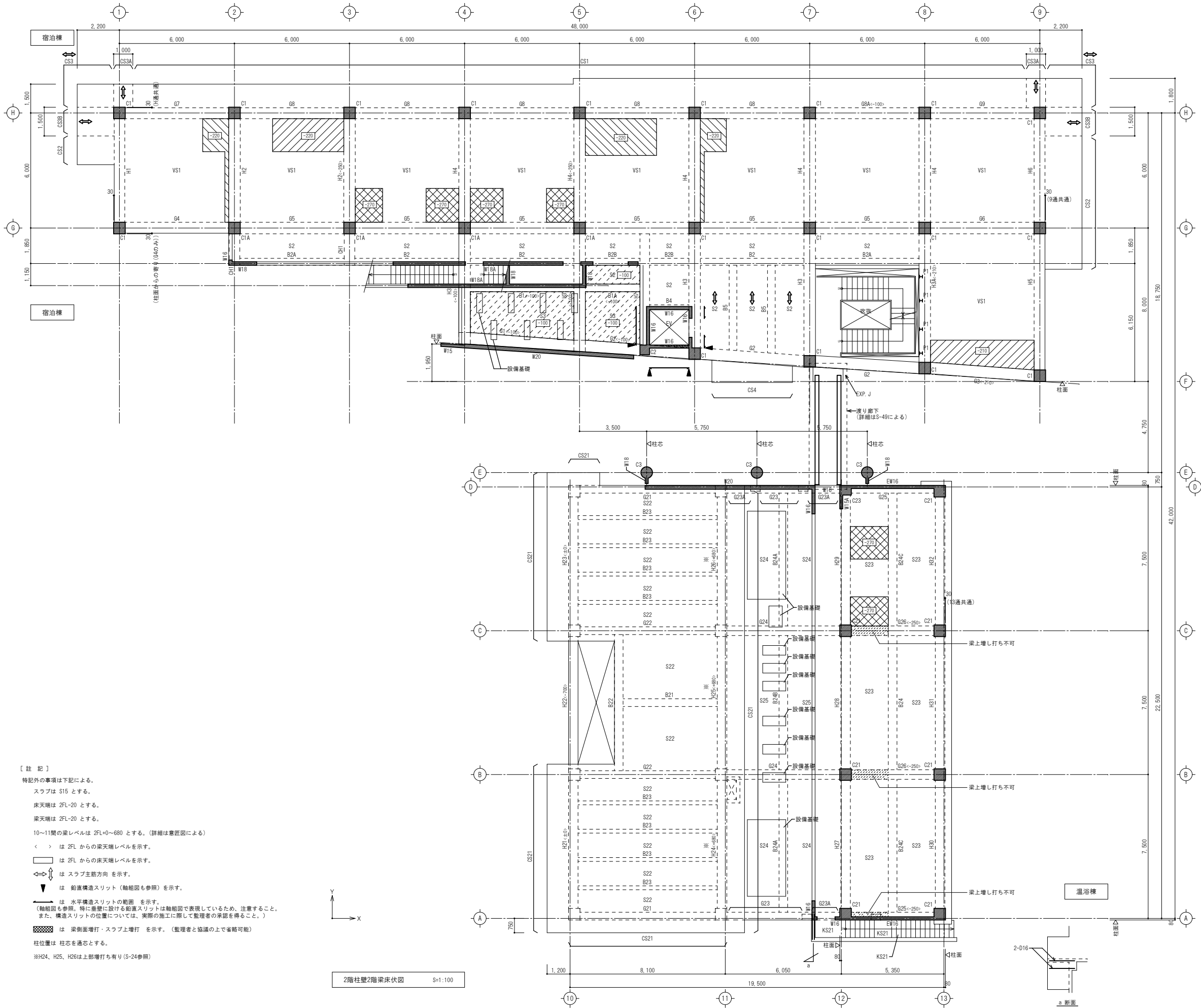
[A1版:原図 → A3版:50%縮小]

OKI.AA
HOKIMOTO ARCHITECTS & ASSOCIATES
2-21-404 Tsurumi cho Naka ku Hiroshima, 730-0045, Japan



TITLE		潮温泉施設建設工事
1階柱壁1階床伏図		S=1:100
株式会社 沖本初建築設計事務所	No.	S-16 (E)
一級建築士大臣登録第103472号	沖 本 初	
一級建築士事務所所在地鳥島知事登録 16(1)第0241号	[A]版:原図 → A3版:50%縮小	

OKI.AA
H-OKIMOTO ARCHITECTS & ASSOCIATES
2-21-404 Tsurumi cho Naka ku Hiroshima, 730-0045, Japan



構造設計担当：一級建築士事務所広島県知事登録第16(1)5162号 株式会社 坂田建築工学研究所
一級建築士大臣登録第 335068 号 / 構造設計一級建築士 第 9344 号 坂田直彦

TITLE 潮温泉施設建設工事

2階柱壁2階床伏図

S=1:100

株式会社 沖本初建築設計事務所

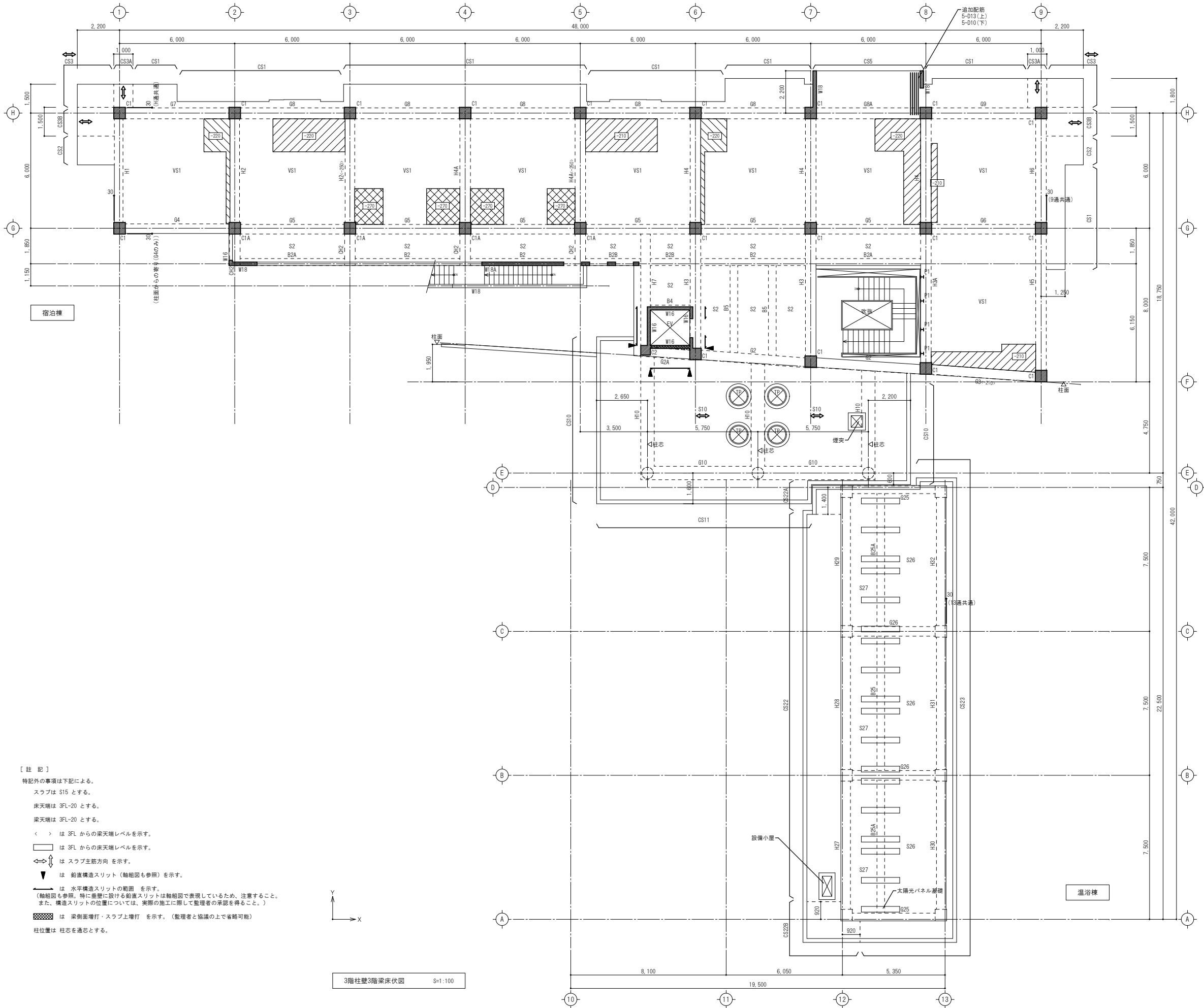
No. S-17 (E)

一級建築士大臣登録第103472号 沖 本 初

一級建築士事務所広島県知事登録 16(1)第0241号

[A1版:原図 → A3版:50%縮小]

OKI.AA
HOKIMOTO ARCHITECTS & ASSOCIATES
2-21-404 Tsurumi cho Naka ku Hiroshima, 730-0045, Japan



[註 記]
特記外の事項は下記による。
スラブは S15 とする。
床天端は 3FL-20 とする。
梁天端は 3FL-20 とする。
＜ ＞ は 3FL からの梁天端レベルを示す。
□ は 3FL からの床天端レベルを示す。
↔ は スラブ主筋方向 を示す。
▼ は 鉛直構造スリット (軸組図も参照) を示す。
← は 水平構造スリットの範囲 を示す。
(軸組図も参照。特に重壁に設ける鉛直スリットは軸組図で表現しているため、注意すること。
また、構造スリットの位置については、実際の施工に際して監理者の承認を得ること。)
▨ は 梁側面増打・スラブ上増打 を示す。(監理者と協議の上で省略可能)
柱位置は 柱芯を通芯とする。



3階柱壁3階梁床伏図 S=1:100

構造設計担当：一級建築士事務所広島県知事登録第16(1)5162号 株式会社 坂田建築工学研究所
一級建築士大匠登録第 335068 号 / 構造設計一級建築士第 9344 号 坂田直彦

TITLE 潮温泉施設建設工事

3階柱壁3階梁床伏図

S=1:100

株式会社 沖本初建築設計事務所

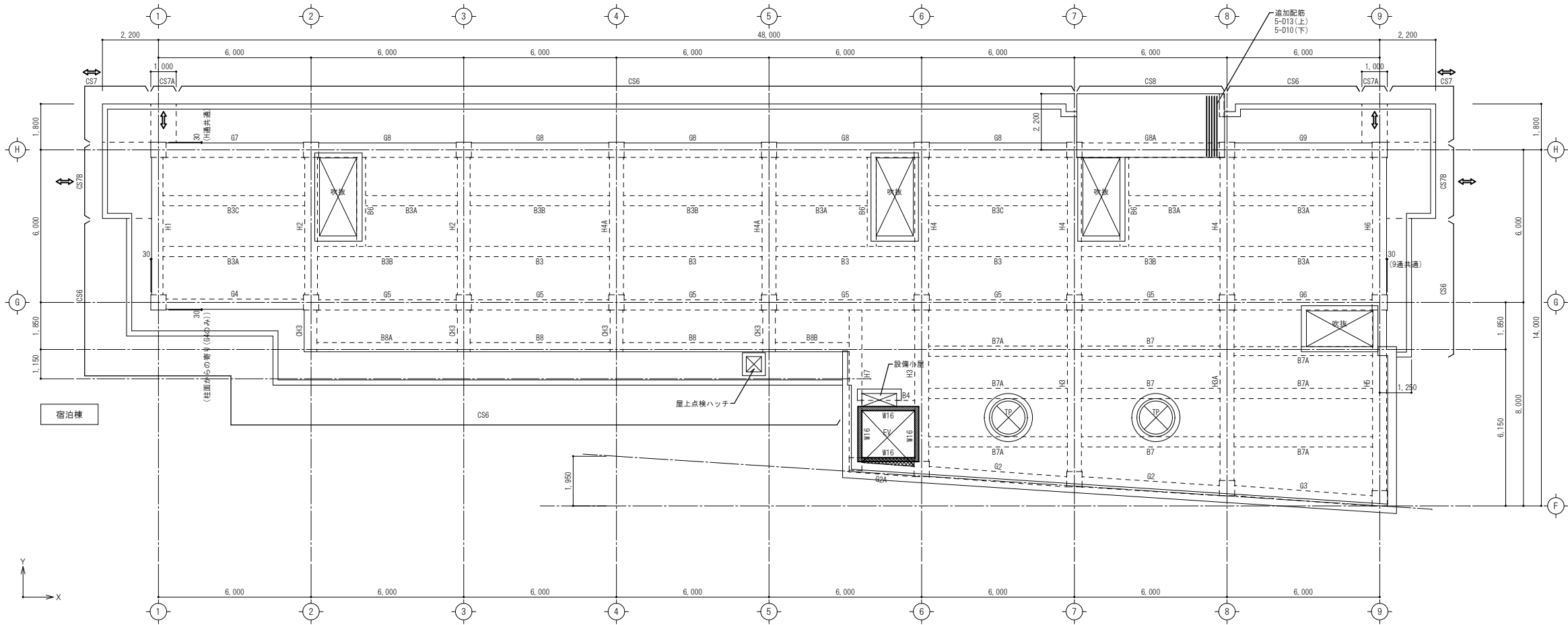
No. S-18 (E)

一級建築士大匠登録第103472号 沖 本 初

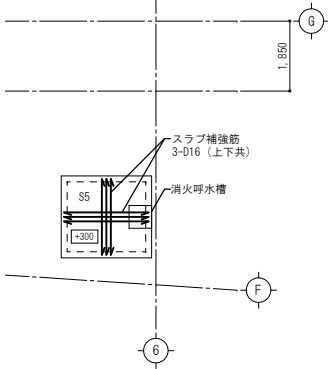
一級建築士事務所広島県知事登録 16(1)第0241号

[A1版:原図 → A3版:50%縮小]

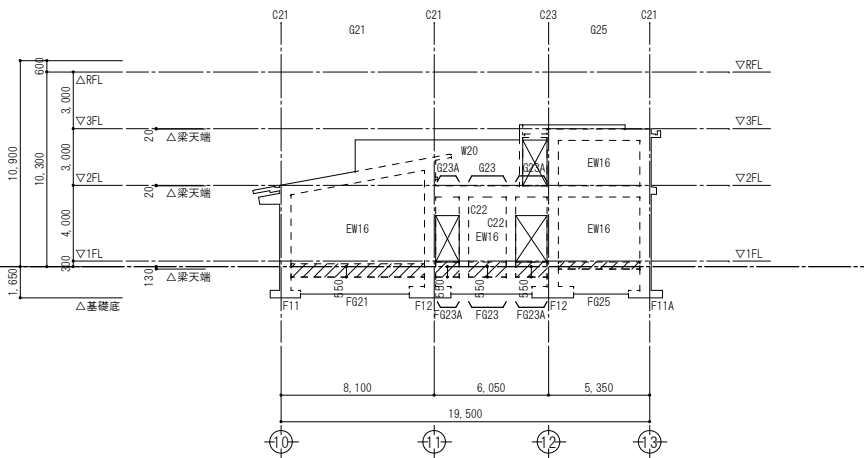
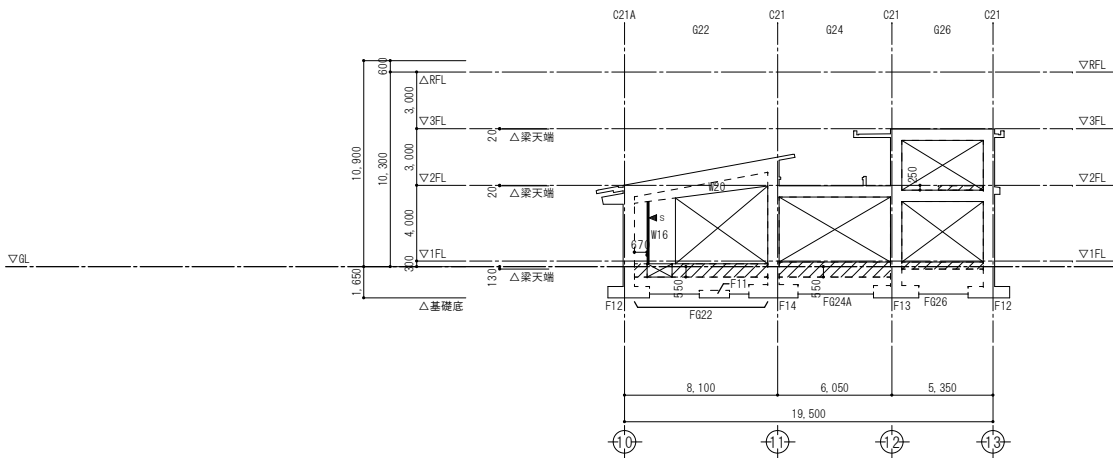
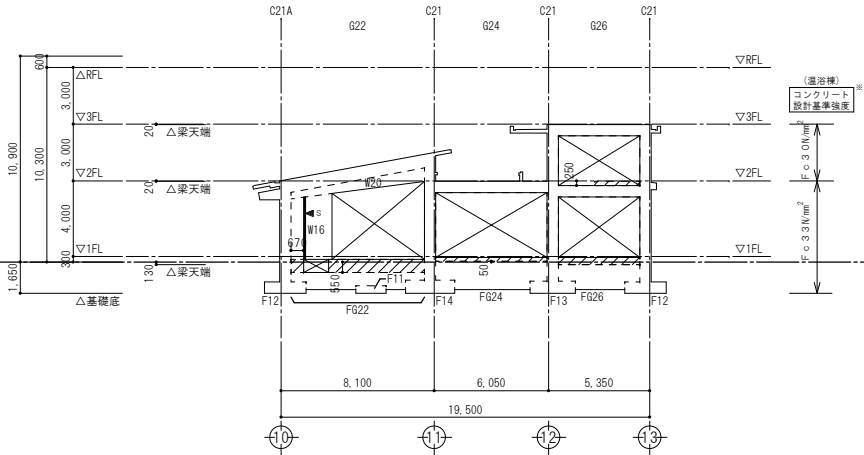
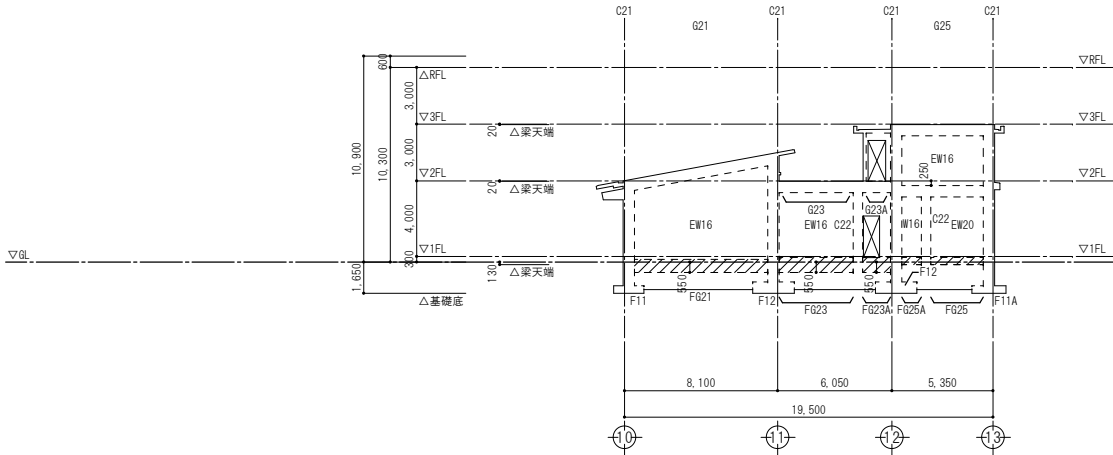
OKI.AA
HOKIMOTO ARCHITECTS & ASSOCIATES
2-21-404 Tsurumi cho Naka ku Hiroshima, 730-0045, Japan



[註 記]
特記外の事項は下記による。
スラブは S4 とする。
梁天端は RFL-20 とする。
＜ ＞ は RFL からの梁天端レベルを示す。
□ は RFL からの床天端レベルを示す。
↕ は スラブ主筋方向 を示す。
■ は 梁側面増打・スラブ上増打 を示す。(監理者と協議の上で省略可能)



立上り壁頂部伏図 S=1:100



[註 記]

特記外の事項は下記による。

壁は W16 とする。

◻▶ は 構造スリット を示す。

//// は 梁天端・柱側面増打 を示す。

※ 施工時呼び強度は J I S規格品を使用する。

構造設計担当：一級建築士事務所広島県知事登録第16(1)15162号 株式会社 坂田建築工学研究所
一級建築士大臣登録第 335068 号 / 構造設計一級建築士第 9344 号 坂田直彦

TITLE 潮温泉施設建設工事

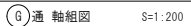
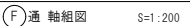
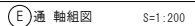
軸組図 (1) S=1:200

株式会社 沖本初建築設計事務所 No. S-20 (E)

一級建築士大臣登録第103472号 沖 本 初

一級建築士事務所広島県知事登録 16(1)第0241号 [A1版:原図 → A3版:50%縮小]

OKI.AA
HOKIMOTO ARCHITECTS & ASSOCIATES
2-21-404 Tsurumi-cho Naka-ku Hiroshima, 730-0045, Japan



※ 施工時呼び強度はJIS規格品を使用する。

構造設計監理：一級建築士事務所広島知事登録第16(1)5162号 株式会社 坂田建築工学研究所
一級建築士大臣登録第 335088 号 / 構造設計一級建築士第 9344 号 坂田直彦

TITLE 潮溫泉施設建設工事

軸組図(2)

S=1 : 200

株式会社 沖本初建築設計事務所

No. S-21 (E)

一級建築士大臣登録第103472号 沖 本 初

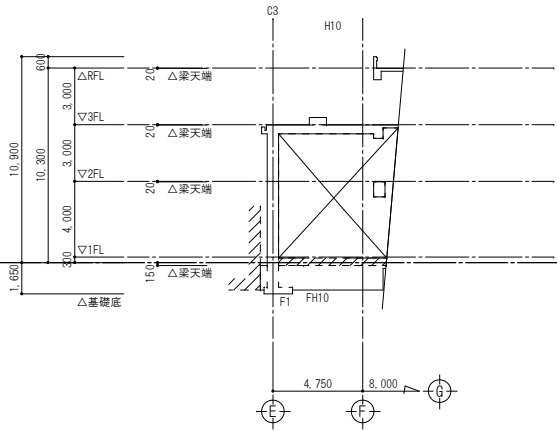
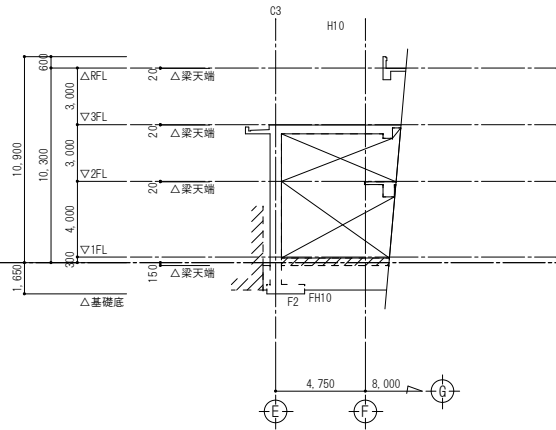
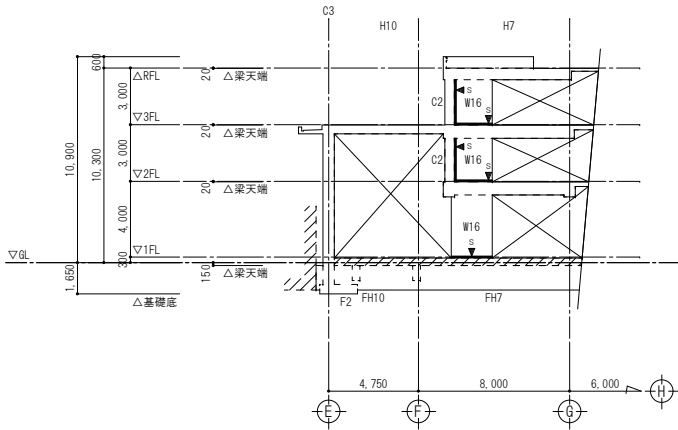
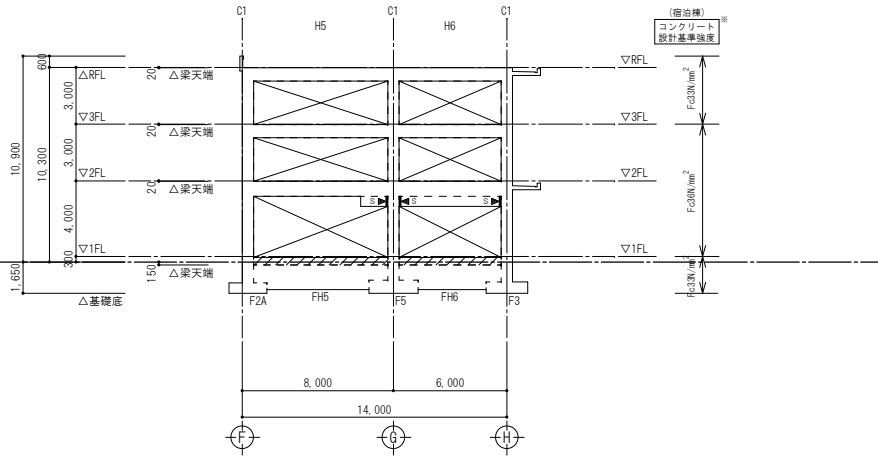
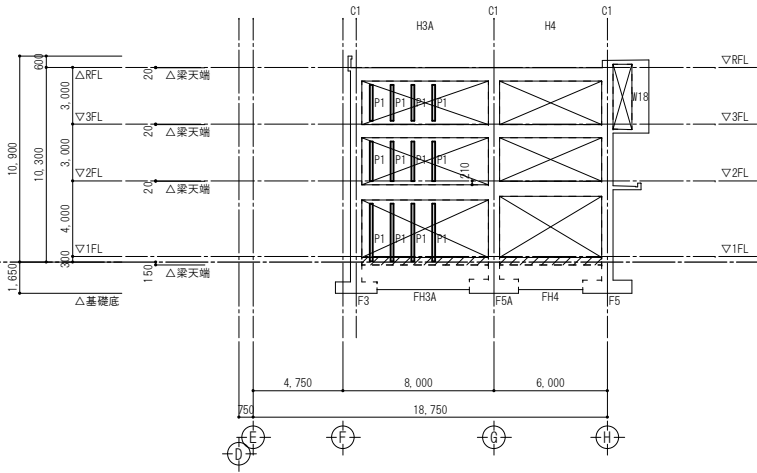
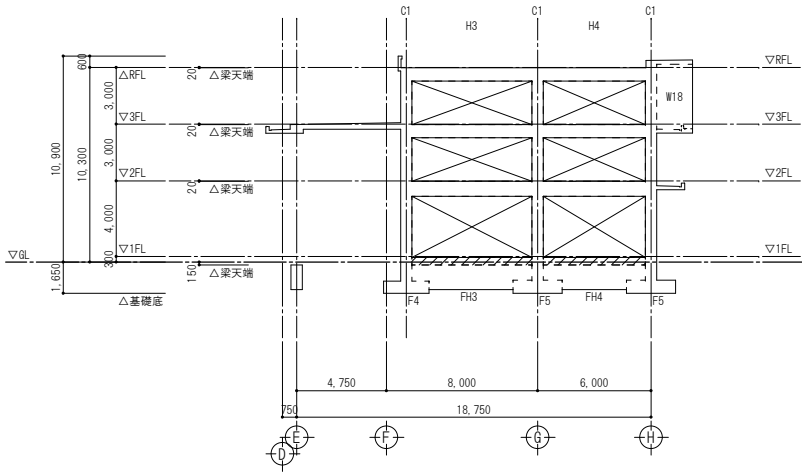
一級建築士事務所広島県知事登録 16(1)第0241号

[A1版:原図 → A3版:50%縮小]

OKI.AA

H•OKIMOTO ARCHITECTS & ASSOCIATES

2-21-404 Tsurumi cho Naka ku Hiroshima, 730-0045, Japar



[註 記]

特記外の事項は下記による。

壁は W16 とする。

◻▶ は 構造スリット を示す。

▨ は 梁天端・柱側面増打 を示す。

※ 施工時呼び強度は J I S規格品を使用する。

構造設計担当：一般建築士事務所広島県知事登録第16(1)5162号 株式会社 坂田建築工学研究所
一般建築士大匠登録第 335068 号 / 構造設計一般建築士第 9344 号 坂田直彦

TITLE 潮温泉施設建設工事

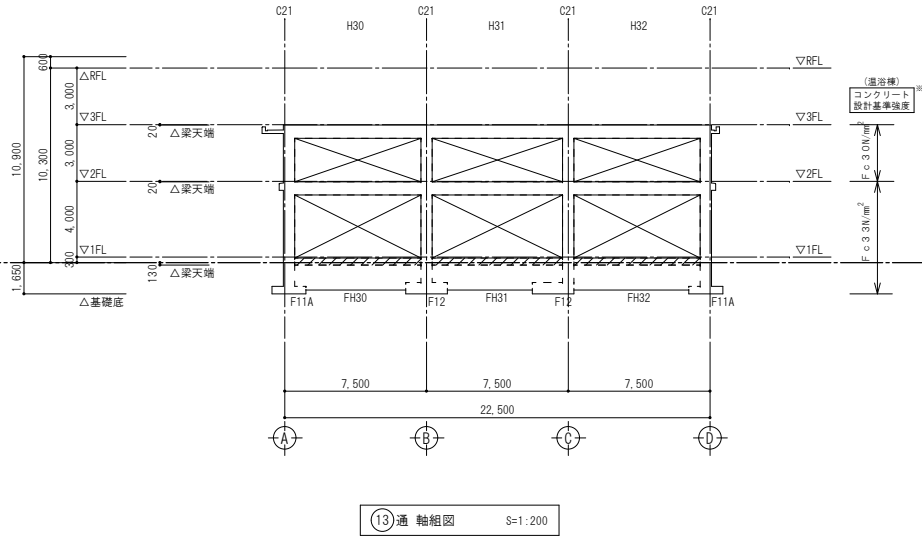
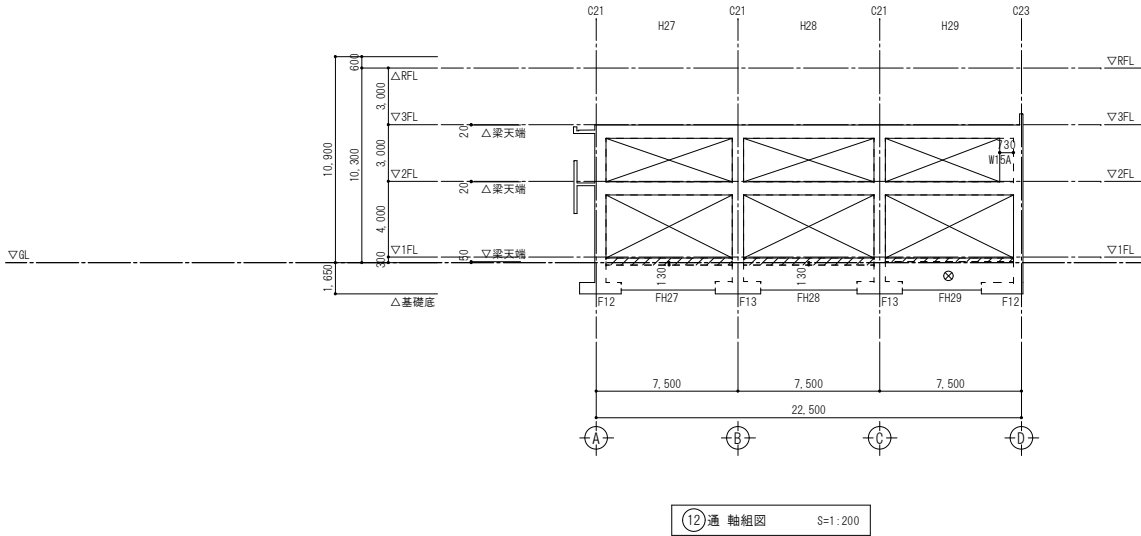
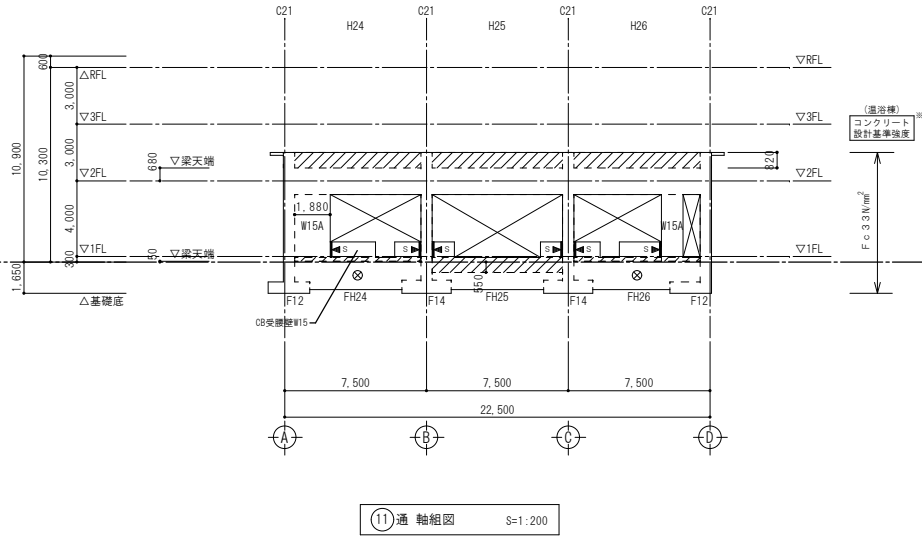
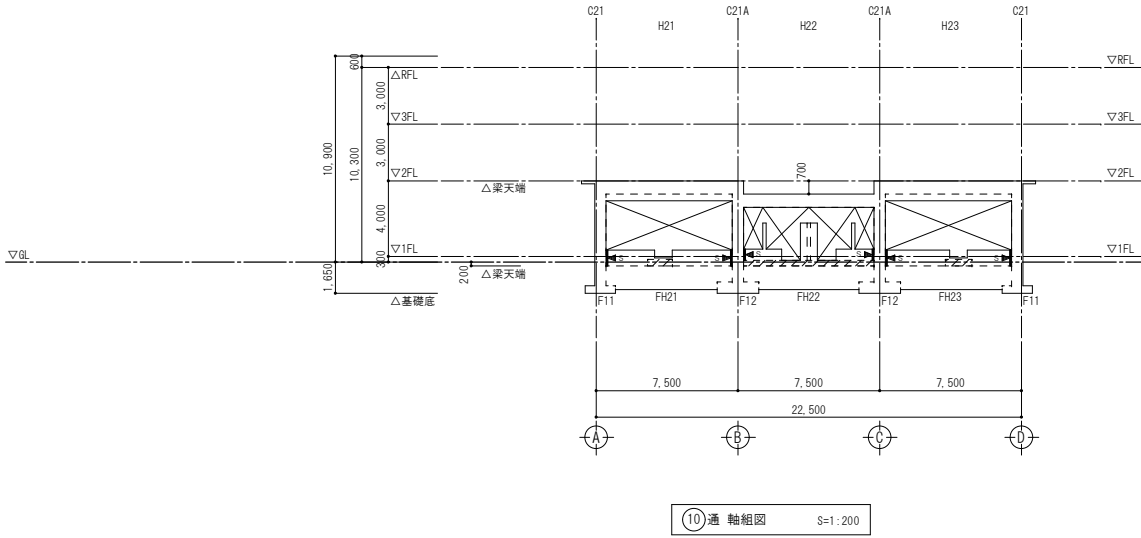
軸組図 (4) S=1:200

株式会社 沖本初建築設計事務所 No. S-23 (E)

一般建築士大匠登録第103472号 沖 本 初

一般建築士事務所広島県知事登録 16(1)第0241号 [A1版:原図 → A3版:50%縮小]

OKI.AA
HOKIMOTO ARCHITECTS & ASSOCIATES
2-21-404 Tsurumi cho Naka ku Hiroshima, 730-0045, Japan



[註 記]

特記外の事項は下記による。

壁は W16 とする。

◻▶ は 構造スリット を示す。

//// は 梁天端・柱側面増打 を示す。

※ 施工時呼び強度は J I S規格品を使用する。

⊗ は 入透孔 (外径500φ) を示す。

構造設計担当：一級建築士事務所 島根知事登録第16(1)5162号 株式会社 坂田建築工学研究所
一級建築士大臣登録第 335068 号 / 構造設計一級建築士第 9344 号 坂田直彦

TITLE 潮温泉施設建設工事

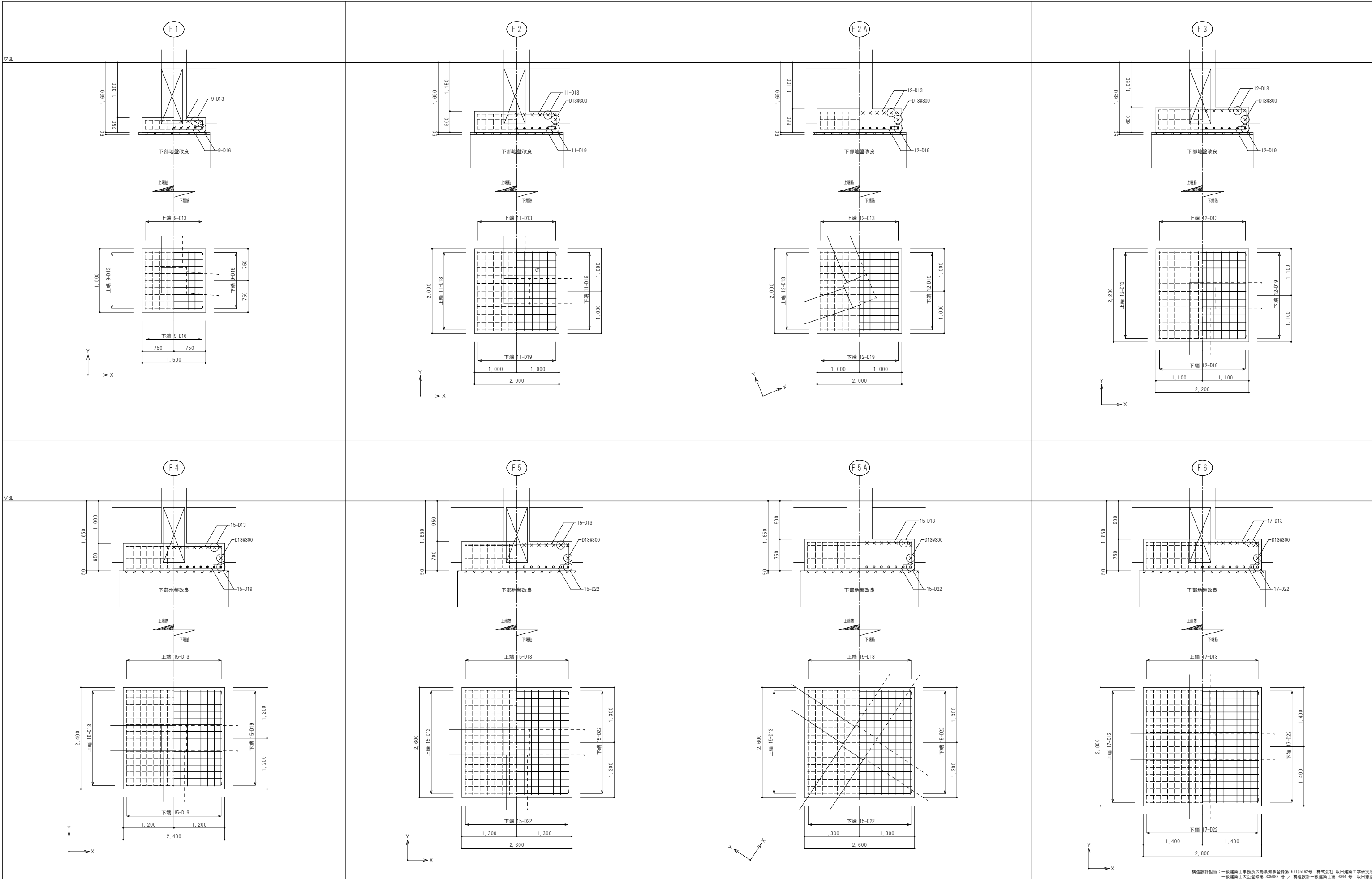
軸組図 (5) S=1:200

株式会社 沖本初建築設計事務所 No. S-24 (E)

一級建築士大臣登録第103472号 沖 本 初

一級建築士事務所 島根知事登録 16(1)第0241号 [A1版:原図 → A3版:50%縮小]

OKI.AA
HOKIMOTO ARCHITECTS & ASSOCIATES
2-21-404 Tsurumi cho Naka ku Hiroshima, 730-0045, Japan



TITLE 潮温泉施設建設工事

基礎リスト(1)

S=1:40

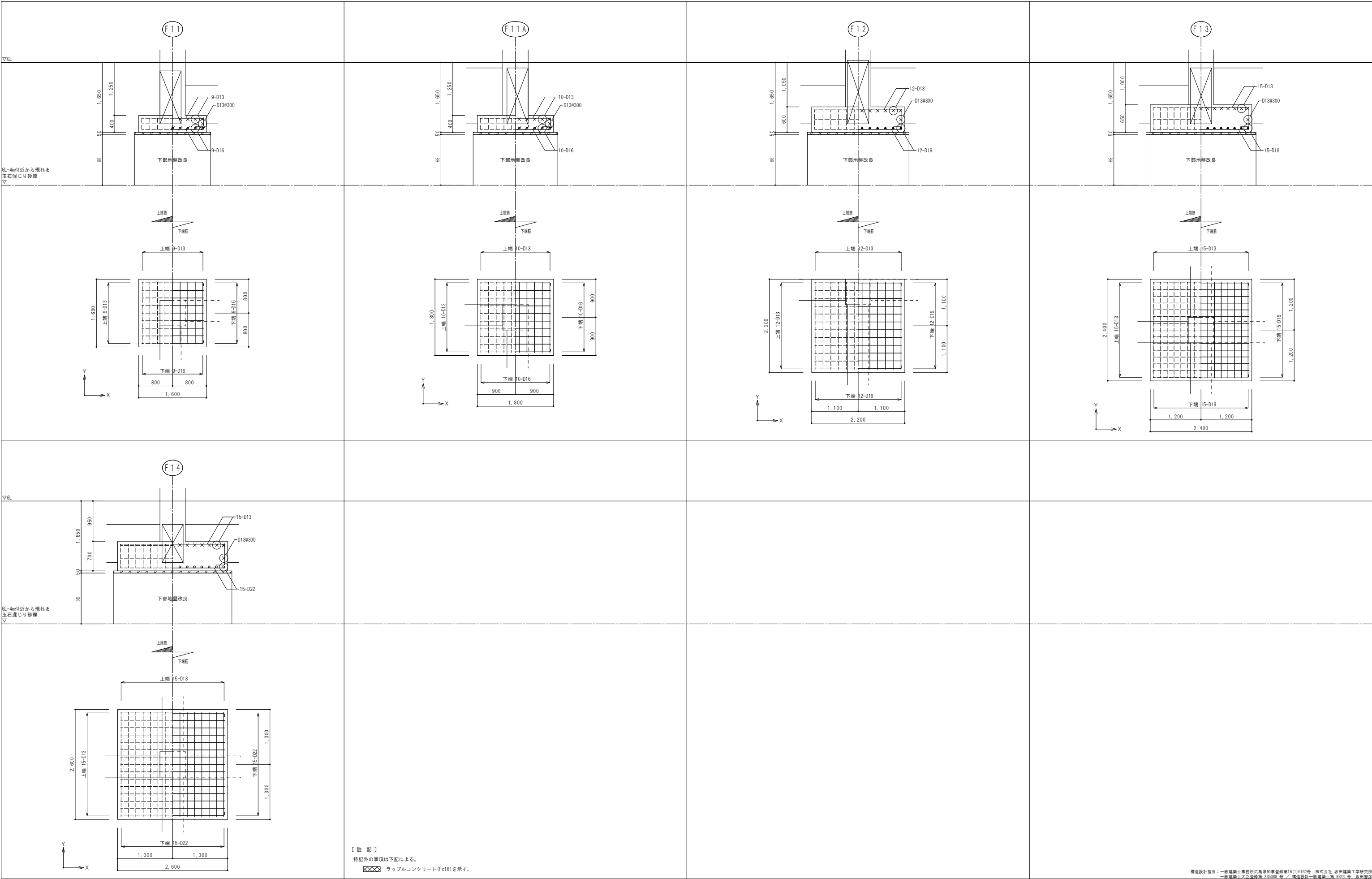
株式会社 沖本初建築設計事務所

No. S-25 (E)

一般建築士大会登録第103472号 沖本 初

一般建築士事務所所広島県知事登録 16(1)第0241号

[A1版:原図 → A3版:50%縮小]



[註 記]
特記外の事項は下記による。
ラップコンクリート (Fc18) を示す。

TITLE 潮温泉施設建設工事

基礎リスト(2)

S=1:40

株式会社 沖本初建築設計事務所

No. S-26 (E)

一般建築士大会登録第103472号 沖 本 初

一般建築士事務所所広島県知事登録 16(1)第0241号

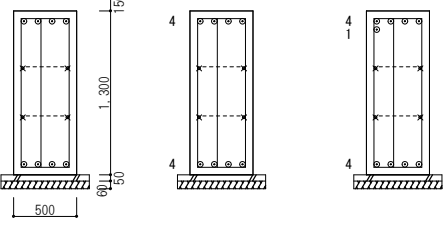
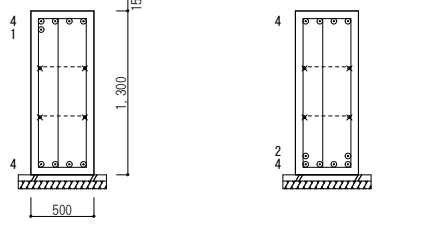
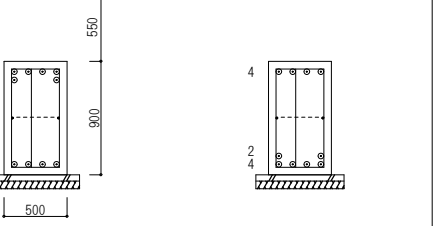
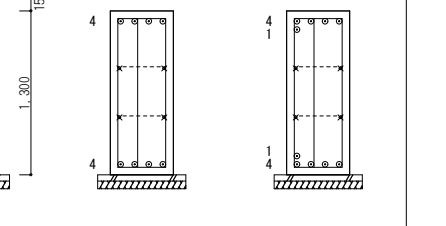
[A1版:原図 → A3版:50%縮小]

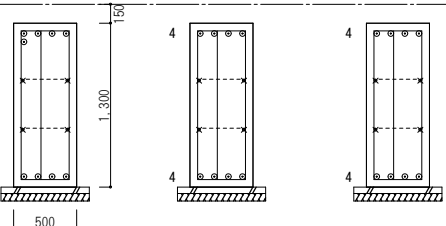
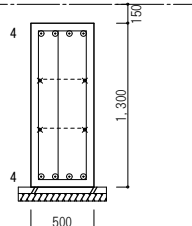
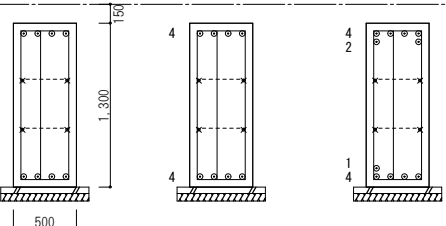
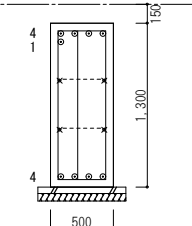
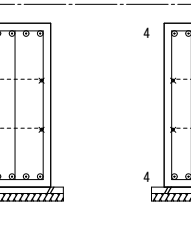
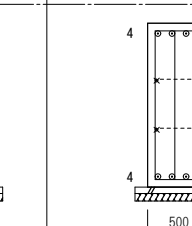
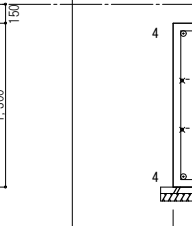
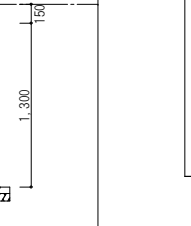
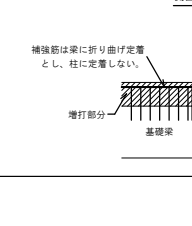
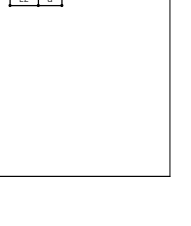
構造設計担当：一般建築士事務所所広島県知事登録第16(1)5162号 株式会社 坂田建築工学研究所
一般建築士大会登録第335068号 / 構造設計一般建築士第 9344 号 坂田寛樹

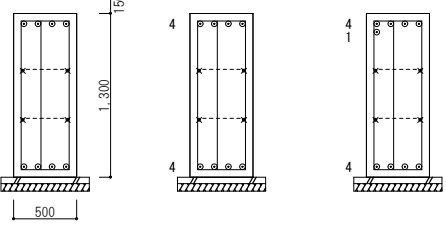
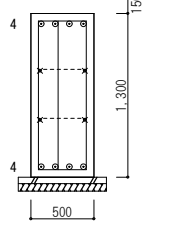
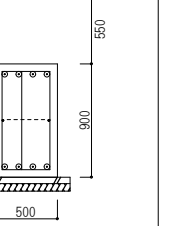
OKI.AA

HOKIMOTO ARCHITECTS & ASSOCIATES

2-21-404 Tsurumi cho Naka ku Hiroshima, 730-0045, Japan

符号	FG1			FG2		FG2A		FG3		
位置	4端	中央	5端	端部	中央	端部	中央	8端	中央	9端
断面										
B x D	500x1300			500x1300		500x900		500x1300		
上端筋	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	4-D25	6-D25	4-D25	5-D25	4-D25	5-D25
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	6-D25	4-D25	6-D25	4-D25	4-D25	5-D25
スターラップ	□(3)-D10#200			□(3)-D10#200		□(3)-D10#200		□(3)-D10#200		
腹筋	4-D13			4-D13		2-D13		4-D13		
カット上筋 CLU	15d(380)			15d(380)		15d(380)		15d(380)		
カット下筋 CLD	-			-		-		15d(380)		

符号	FG4			FG5	FG6			FG7			FG8	FG8A
位置	1端	中央	2端	全断面	8端	中央	9端	1端	中央	2端	全断面	全断面
断面												
B x D	500x1300			500x1300	500x1300			500x1300			500x1300	500x1300
上端筋	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	6-D25	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25
スターラップ	□(3)-D10#200			□(3)-D10#200	□(3)-D10#200			□(3)-D10#200			□(3)-D10#200	□(3)-D10#200
腹筋	4-D13			4-D13	4-D13			4-D13			4-D13	4-D13
カット上筋 CLU	15d(380)			-	20d(500)			15d(380)			-	-
カット下筋 CLD	-			-	15d(380)			-			-	-

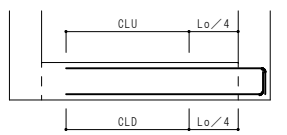
符号	FG9			FG10	FG10A
位置	8端	中央	9端	全断面	全断面
断面					
B x D	500x1300			500x1300	500x900
上端筋	4-D25	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25
スターラップ	□(3)-D10#200			□(3)-D10#200	□(3)-D10#200
腹筋	4-D13			4-D13	2-D10
カット上筋 CLU	15d(380)			-	-
カット下筋 CLD	-			-	-

〔柱 記〕
特記外の事項は下記による

幅止め筋・受筋は B<900 の時、D10@1000 内
B≧900 の時、D13@1000 内とする。

カットオフ筋は下記の配筋要領図による。

カットオフの() 内数値はカットオフ長さを示し、10mm単位で丸めている。

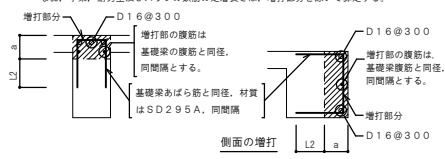


Lo : 内法スパン
CLU : カットオフ筋余長 (上端)
CLD : カットオフ筋余長 (下端)

カットオフ筋要領図

基礎梁 増打コンクリート補強筋要領図

梁の増打補強配筋は下記により、増打幅 (a) が 70mm 以上の場合に適用する。
なお、小梁、耐力壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、増打部分を除いて算定する。



増打部分の鉄筋は、基礎梁の鉄筋と同径、同間隔とする。

基礎梁あばら筋と同径、材質は S D 2 9 5 A、同間隔

側面の増打

補強筋は梁に折り曲げ定着とし、柱に定着しない

増打部分

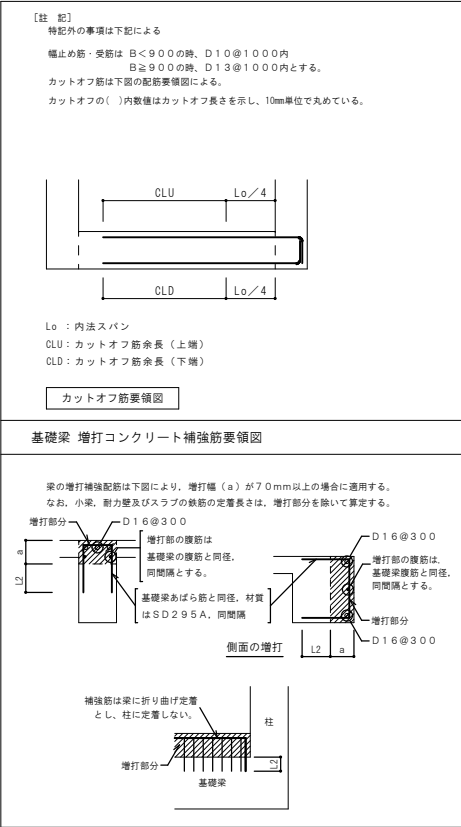
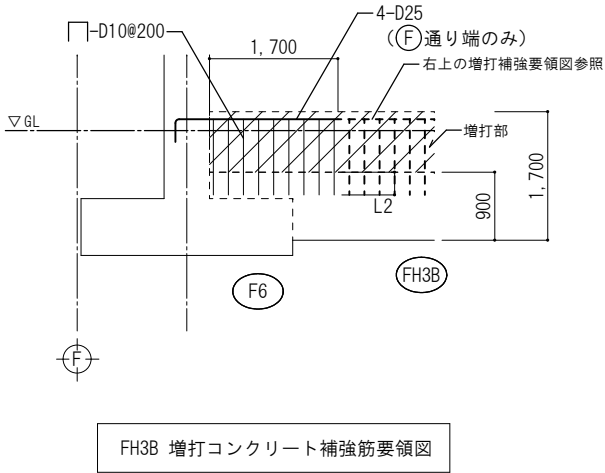
基礎梁

柱

符号	FH1			FH2			FH2A		FH3			
位置	端部		中央	G端	中央	H端	端部		中央	他端	中央	G端
断面												
B x D	500x1300			600x1300			500x1300		500x1300			
上端筋	5-D25		4-D25	10-D25	5-D25	7-D25	6-D25		4-D25	6-D25	4-D25	4-D25
下端筋	4-D25		4-D25	5-D25	5-D25	5-D25	4-D25		4-D25	5-D25	4-D25	4-D25
スターラップ	□(3)-D10#200			□(3)-D10#150			□(3)-D10#200		□(3)-D10#200			
腹筋	4-D13			4-D13			4-D13		4-D13			
カット上筋 CLU	15d(380)			50d(1250)			20d(500)		25d(630)			
カット下筋 CLD	-			-			-		15d(380)			

符号	FH3A			FH3B			FH4			FH5		
位置	他端	中央	G端	他端	中央	G端	G端	中央	H端	F端	中央	G端
断面												
B x D	500x1300			500x900			500x1300			500x1300		
上端筋	6-D25	4-D25	4-D25	6-D25	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	6-D25	5-D25	4-D25	4-D25
下端筋	5-D25	4-D25	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25
スターラップ	□(3)-D10#200			□(3)-D10#200			□(3)-D10#200			□(3)-D10#200		
腹筋	4-D13			2-D10			4-D13			4-D13		
カット上筋 CLU	15d(380)			25d(630)			20d(500)			15d(380)		
カット下筋 CLD	15d(380)			15d(380)			-			-		

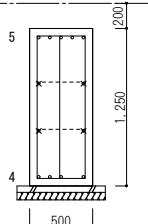
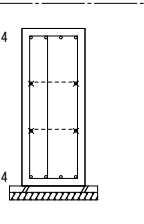
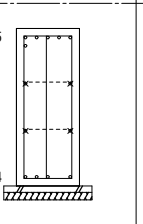
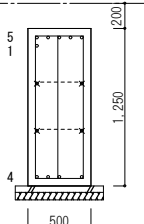
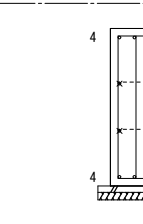
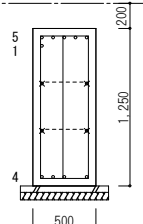
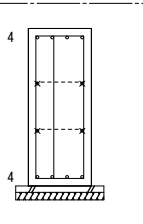
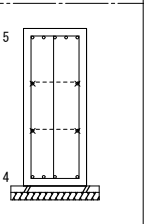
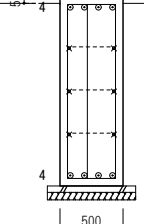
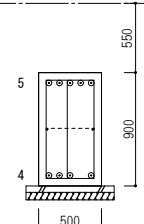
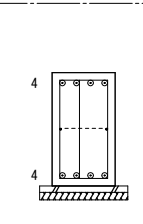
符号	FH6			FH7	FH10		
位置	G端	中央	H端	全断面	E端	中央	他端
断面							
B x D	500x1300			500x1300	500x1300		
上端筋	4-D25	4-D25	6-D25	4-D25	6-D25	4-D25	4-D25
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25
スターラップ	□(3)-D10#200			□(3)-D10#200	□(3)-D10#200		
腹筋	4-D13			4-D13	4-D13		
カット上筋 CLU	20d(500)			-	20d(500)		
カット下筋 CLD	-			-	-		

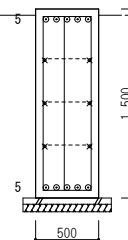
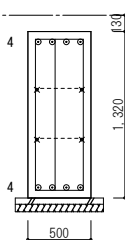
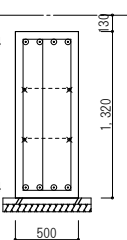
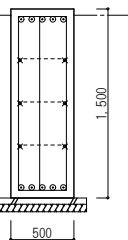
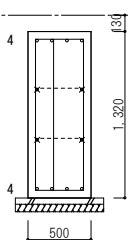


基礎梁リスト(3)(温浴棟) S=1:30

S=1 : 30

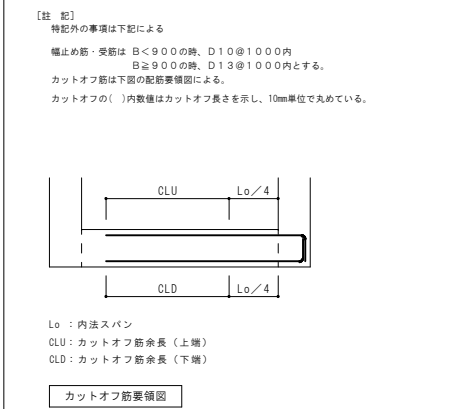
[illegible]

符号	FH21			FH22		FH23			FH24	FH25	
位置	A端	中央	B端	端部	中央	C端	中央	D端	全断面	端部	中央
断面	  			 		  				 	
B x D	500x1250			500x1250		500x1250			500x1500	500x900	
上端筋	5-D22	4-D22	6-D22	6-D22	4-D22	6-D22	4-D22	5-D22	4-D25	5-D25	4-D25
下端筋	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D25	4-D25	4-D25
スターラップ	□(3)-D10#200			□(3)-D10#200		□(3)-D10#200			□(3)-D10#200	□(3)-D10#200	
腹筋	4-D13			4-D13		4-D13			6-D13	2-D10	
カット上筋 CLU	15d (330)			15d (330)		15d (330)			-	15d (330)	
カット下筋 CLD	-			-		-			-	-	

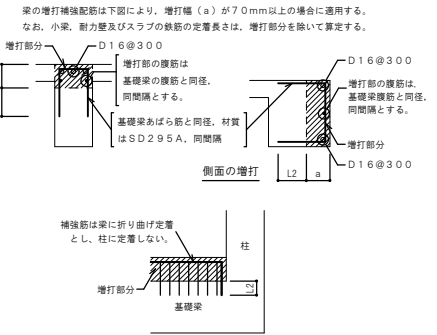
符号	FH26			FH27	FH28	FH29			FH30		
位置	C端	中央	D端	全断面	全断面	左端	中央	右端	全断面		
断面											
B x D	500x1500			500x1320	500x1320	500x1500			500x1320		
上端筋	5-D25	5-D25	10-D25	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	9-D25	4-D22		
下端筋	5-D25	5-D25	5-D25	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	5-D25	4-D22		
スターラップ	□(3)-D10#100			□(3)-D10#200	□(3)-D10#200	□(3)-D10#100			□(3)-D10#200		
腹筋	6-D13			4-D13	4-D13	6-D13			4-D13		
カット上筋 CLU	45d (990)			-	-	30d (660)			-		
カット下筋 CLD	-			-	-	-			-		

人通孔補強筋配筋表（在来型）

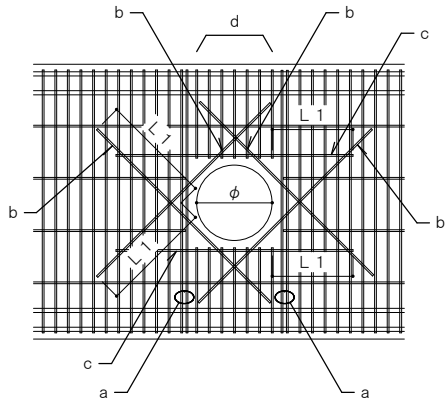
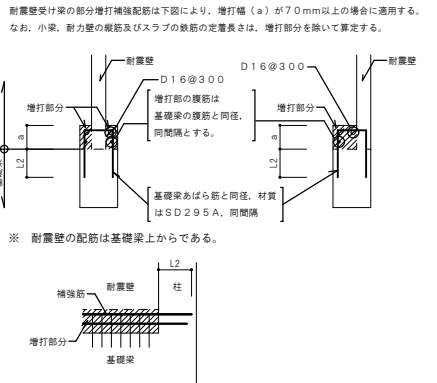
符 号	ϕ	a	b	c	d
F H 2 4	5 0 0	$3 \times \square (3) - D 10$	$4 - D 25$	$2 - D 16$	$\square (2) - D 10 @ 200$
F H 2 6	5 0 0	$3 \times \square (3) - D 10$	$\begin{matrix} 8 - D 25 \\ (4 \text{ 本} \times 2 \text{ 段}) \end{matrix}$	$2 - D 16$	$\square (2) - D 10 @ 100$
F H 2 9	5 0 0	$3 \times \square (3) - D 10$	$\begin{matrix} 8 - D 25 \\ (4 \text{ 本} \times 2 \text{ 段}) \end{matrix}$	$2 - D 16$	$\square (2) - D 10 @ 100$



基礎梁 増打コンクリート補強筋要領図

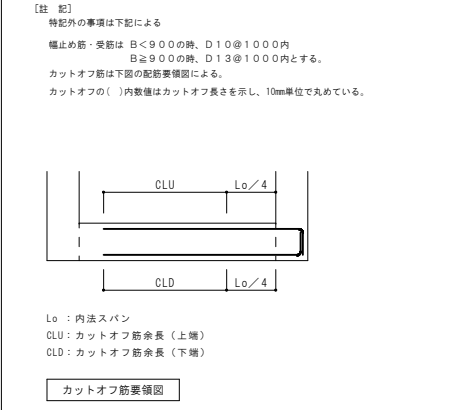


耐震壁下部 基礎梁増打補強要領図

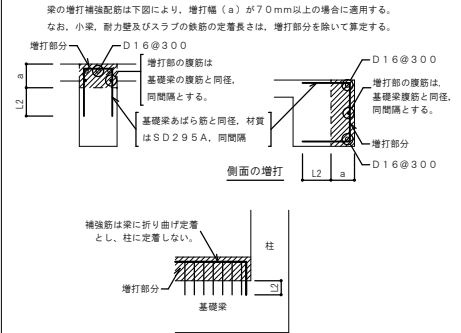


基礎梁貫通孔，在來型補強要領図

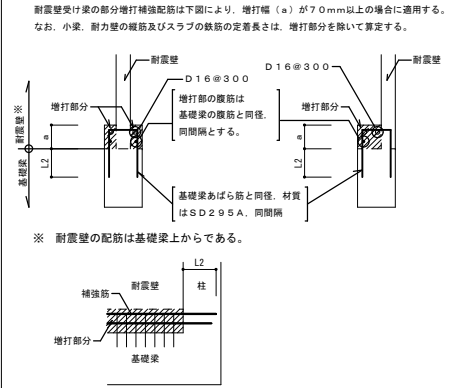
符号	FH31			FH32		
位置	B端	中央	C端	C端	中央	D端
断面						
B x D	500x1320			500x1320		
上端筋	4-D22	7-D22	7-D22	7-D22	4-D22	4-D22
下端筋	4-D22	4-D22	6-D22	6-D22		4-D22
スターラップ	□□(3)-D10@100			□□(3)-D10@200		
腹筋	4-D13			4-D13		
カット上筋 CLU	15d (330)			15d (330)		
カット下筋 CLD	15d (330)			20d (440)		



基礎梁 増打コンクリート補強筋要領図



耐震壁下部 基礎梁増打補強要領図



基礎小梁リスト(宿泊棟)

S=1:30

符号	FB1	FB2	FB3			FB4	FB5	FB6	FB7		FB8	
位置	全断面	全断面	FCB1端	中央	FB1端	全断面	全断面	全断面	端部	中央	端部	中央
断面												
コンクリート	400x1300	350x500	400x800			250x1100	400x1300	350x500	350x600		400x900	
上端筋	4-D19	3-D19	8-D19	8-D19	4-D19	2-D19	4-D19	3-D19	3-D19	3-D19	4-D19	4-D19
下端筋	4-D19	3-D19	4-D19	4-D19	4-D19	2-D19	4-D19	3-D19	3-D19	6-D19	4-D19	8-D19
スターラップ	□(2)-D10#150	□(2)-D10#200	□(2)-D10#150			□(2)-D13#200	□(2)-D10#150	□(2)-D10#200	□(2)-D10#200		□(2)-D10#150	
腹筋	4-D13	2-D10	2-D10			4-D13	4-D13	2-D10	2-D10		2-D10	

符号	FB9		FB10	FCB1		FCB2	FCH1		FCH2	
位置	端部	中央	全断面	元端	先端	全断面	元端	先端	元端	先端
断面										
コンクリート	400x900		300x500	400x800		400x900	400x600		600x1300	
上端筋	4-D19	4-D19	3-D16	8-D19	4-D19	4-D19	6-D25	4-D25	12-D25	5-D25
下端筋	4-D19	7-D19	3-D16	4-D19	4-D19	4-D19	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25
スターラップ	□(2)-D10#150		□(2)-D10#200	□(2)-D10#150		□(2)-D10#175	□(2)-D10#150		□(3)-D10#100	
腹筋	2-D10		2-D10	2-D10		2-D10	2-D10		4-D13	

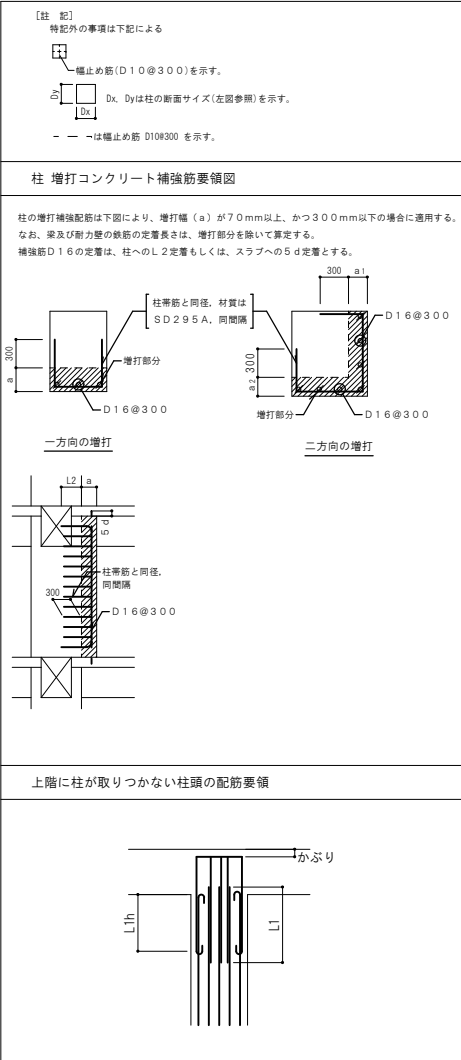
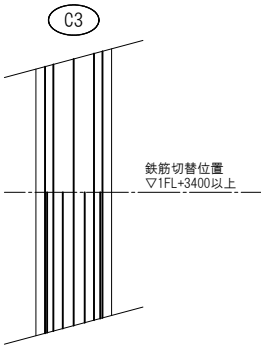
基礎小梁リスト(温浴棟)

S=1:30

符号	FB21		FB21A			FB22		FB22A		
位置	端部	中央	外端	中央	FB21端	端部	中央	外端	中央	FB22端
断面										
コンクリート	400x800		400x800			400x800		400x800		
上端筋	8-D22	4-D22	4-D22	4-D22	8-D22	6-D19	4-D19	4-D19	4-D19	6-D19
下端筋	4-D22	6-D22	8-D22	8-D22	4-D22	4-D19	4-D19	6-D19	6-D19	4-D19
スターラップ	□(3)-D10#150		□(3)-D10#150			□(2)-D10#150		□(2)-D10#150		
腹筋	2-D10		2-D10			2-D10		2-D10		

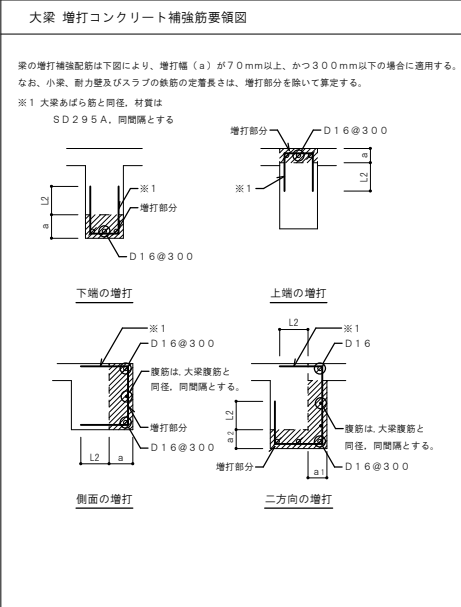
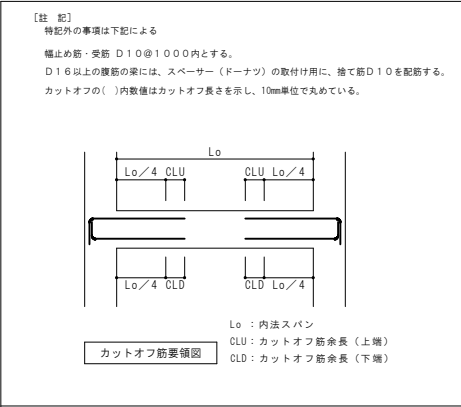
【注 記】 特記外の事項は下記による 幅止め筋・受筋は B<900の時、D10@1000内 B≧900の時、D13@1000内とする。	基礎梁 増打コンクリート補強筋要領図 梁の増打補強筋は下記により、増打幅（a）が70mm以上の場合に適用する。 なお、小梁、壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、増打部分を除いて算定する。 増打部分 D16@300 基礎梁の腹筋と同径、 同間隔とする。 基礎梁あばら筋と同径、材質 はSD295A、同間隔 側面の増打 D16@300 増打部分 D16@300 同径、同間隔とする。	基礎小梁 増打コンクリート部 定着要領図 主筋 増打部分 基礎小梁 基礎梁 主筋 増打部分 基礎梁 ※1 鉄筋の定着長さは、 増打部分を除いて算定する。 <下端増打>
---	---	---

階	符号	C1	C1A	C1B	C2	C3
3F	パネルゾーン	■□(2x2) - D10#100	■□(2x2) - D10#100		■□(2x2) - D10#100	
	断面					
	Dx x Dy	600x600	600x600		500x500	
		(全断面)	(全断面)		(全断面)	
	主筋	12 - D25	12 - D22		14 - D25	
2F	フープ	□(2x2) - D10#100	□(2x2) - D10#100		□(2x2) - D10#100	
	パネルゾーン	■□(2x2) - D13#100	■□(2x2) - D13#100		■□(2x2) - D13#100	
	断面					
	Dx x Dy	600x600	600x600		500x500	
		(全断面)	(全断面)		(全断面)	
1F	主筋	16 - D25	12 - D22		14 - D25	
	フープ	▤(2x5) - D13#100	▤(2x3) - D13#100		□(2x2) - D13#100	
	パネルゾーン	■□(2x2) - D13#100	■□(2x2) - D13#100		■□(2x2) - D13#100	
	断面					
	Dx x Dy	600x600	600x600		600x600	
		(全断面)	(全断面)		(全断面)	
	主筋	16 - D25	16 - D22		16 - D25	
	フープ	▤(2x5) - D13#100	▤(2x4) - D13#100		□(2x2) - D13#100	
	パネルゾーン	■□(2x2) - D13#100	■□(2x2) - D13#100		■□(2x2) - D13#100	



階	符号	C21	C21A	C22	C23
2F	パネルゾーン	■□(2x2) - D13#100			■□(2x2) - D13#100
	断面				
	Dx x Dy	600x600			600x500
		(全断面)			(全断面)
	主筋	12 - D22			12 - D22
1F	フープ	□(2x2) - D13#100			□(2x2) - D13#100
	パネルゾーン	■□(2x2) - D13#100	■□(2x2) - D13#100	■□(2x2) - D10#100	■□(2x2) - D13#100
	断面				
	Dx x Dy	600x600	600x600	500x300	600x500
		(全断面)	(柱頭) (柱脚)	(全断面)	(全断面)
	主筋	12 - D22	16 - D22 20 - D22	8 - D19	12 - D22
	フープ	□(2x2) - D13#100	▤(2x3) - D13#100	▤(2x3) - D10#100	□(2x2) - D13#100
	パネルゾーン	■□(2x2) - D13#100	■□(2x2) - D13#100	■□(2x2) - D10#100	■□(2x2) - D13#100

階	符号	G1			G2		G2A			G3			G4			G5	
RFL	位置				端部	中央	他端	中央	6端	8端	中央	9端	1端	中央	2端	端部	中央
	断面																
	B × D	400x600			400x600		400x600			400x600			400x600			400x600	
	上端筋	5-D19			3-D19		3-D19			5-D19			4-D19			5-D19	
	下端筋	3-D19			3-D19		3-D19			3-D19			3-D19			3-D19	
	スターラップ	Ⅲ(3)-D10#200			Ⅲ(3)-D10#200		Ⅲ(3)-D13#100			Ⅲ(3)-D10#200			Ⅲ(3)-D10#200			Ⅲ(3)-D10#200	
	腹筋	2-D10			2-D10		2-D10			2-D10			2-D10			2-D10	
	カット上筋 CLU	15d(290)			15d(290)		-			15d(290)			15d(290)			15d(290)	
	カット下筋 CLD	-			-		-			-			-			-	
3FL	位置				端部	中央	他端	中央	6端	8端	中央	9端	1端	中央	2端	端部	中央
	断面																
	B × D	500x700			500x700		500x700			500x700			500x700			500x700	
	上端筋	7-D22			4-D22		4-D22			7-D22			5-D22			6-D22	
	下端筋	4-D22			4-D22		5-D22			4-D22			4-D22			4-D22	
	スターラップ	Ⅲ(3)-D10#200			Ⅲ(3)-D10#200		Ⅲ(4)-D10#100			Ⅲ(3)-D10#200			Ⅲ(3)-D10#200			Ⅲ(3)-D10#200	
	腹筋	2-D10			2-D10		2-D10			4-D16※1			4-D16※1			4-D16※1	
	カット上筋 CLU	15d(330)			15d(330)		30d(660)			15d(330)			15d(330)			15d(330)	
	カット下筋 CLD	-			-		15d(330)			-			-			-	
2FL	位置	4端	中央	5端	端部	中央				8端	中央	9端	1端	中央	2端	端部	中央
	断面																
	B × D	600x800			600x800					600x800			570x800			600x800	
	上端筋	5-D22	5-D22	7-D22	8-D22	5-D22				7-D22	4-D22	7-D22	7-D22	4-D22	6-D22	6-D22	4-D22
	下端筋	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	7-D22				4-D22	4-D22	5-D22	5-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22
	スターラップ	Ⅲ(4)-D10#200			Ⅲ(4)-D10#200					Ⅲ(4)-D10#200			Ⅲ(4)-D10#200			Ⅲ(4)-D10#200	
	腹筋	2-D10			2-D10					4-D16※1			4-D16※1			4-D16※1	
	カット上筋 CLU	15d(380)			15d(380)					15d(330)			15d(330)			15d(330)	
	カット下筋 CLD	-			-					15d(330)			15d(330)			-	



大梁リスト(2)(宿泊棟) S=1:30 ※1 の腹筋は、柱内に L2定着 すること。

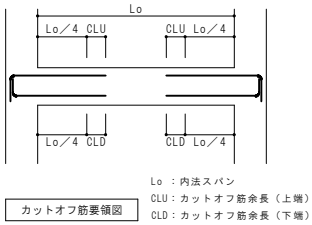
階	符号	G6			G7			G8		G8A		G9			G10
		位置	8端	中央	9端	1端	中央	2端	端部	中央	端部	中央	8端	中央	9端
RFL	断面														
	B × D	400x600			570x420			570x420		570x420		570x420			
	上端筋	5-D19	3-D19	4-D19	4-D19	4-D19	6-D19	6-D19	4-D19	6-D19	4-D19	6-D19	4-D19	4-D19	
	下端筋	3-D19	3-D19	3-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	
	スターラップ	Ⅲ(3)-D10#200			Ⅳ(4)-D10#200			Ⅳ(4)-D10#200		Ⅳ(4)-D10#200		Ⅳ(4)-D10#200			
	腹筋	2-D10			2-D10			2-D10		2-D10		2-D10			
	カット上筋 CLU	15d(290)			15d(290)			15d(290)		15d(290)		15d(290)			
カット下筋 CLD	-			-			-		-		-				
3FL	位置	8端	中央	9端	1端	中央	2端	端部	中央	端部	中央	8端	中央	9端	全断面
	断面														
	B × D	500x700			570x420			570x420		570x420		570x420			700x460
	上端筋	6-D22	3-D22	5-D22	5-D22	4-D22	6-D22	6-D22	4-D22	6-D22	4-D22	6-D22	4-D22	5-D22	6-D19
	下端筋	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	6-D19
	スターラップ	Ⅲ(3)-D10#200			Ⅳ(4)-D10#200			Ⅳ(4)-D10#200		Ⅳ(4)-D10#200		Ⅳ(4)-D10#200			Ⅳ(4)-D10#200
	腹筋	2-D10			4-D13※1			4-D16※1		4-D19※1		4-D13※1			2-D10
カット上筋 CLU	15d(330)			15d(330)			15d(330)		15d(330)		15d(330)			-	
カット下筋 CLD	-			-			-		-		-			-	
2FL	位置	8端	中央	9端	1端	中央	2端	端部	中央	端部	中央	8端	中央	9端	
	断面														
	B × D	600x800			570x800			570x800		570x800		570x800			
	上端筋	7-D22	4-D22	7-D22	7-D22	4-D22	6-D22	7-D22	4-D22	7-D22	4-D22	6-D22	4-D22	7-D22	
	下端筋	4-D22	4-D22	5-D22	5-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	5-D22	
	スターラップ	Ⅳ(4)-D10#200			Ⅳ(4)-D10#200			Ⅳ(4)-D10#200		Ⅳ(4)-D10#200		Ⅳ(4)-D10#200			
	腹筋	2-D10			4-D13※1			4-D16※1		4-D19※1		4-D13※1			
カット上筋 CLU	15d(330)			15d(330)			15d(330)		15d(330)		15d(330)				
カット下筋 CLD	15d(330)			15d(330)			-		-		15d(330)				

【註 記】
特記外の事項は下記による。

横止め筋・受筋 D10@1000内とする。

D16以上の腹筋の梁には、スベーサー（ドーナツ）の取付け用に、捨て筋D10を配筋する。

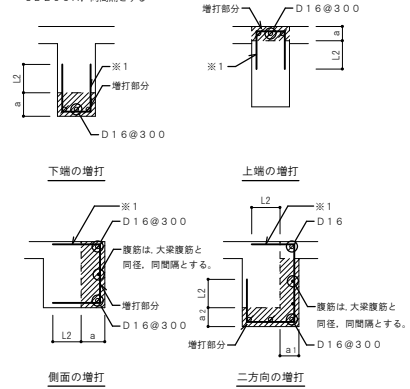
カットオフの（ ）内数値はカットオフ長さを示し、10mm単位で丸めている。

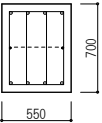
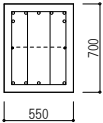
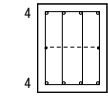
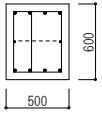
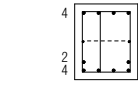
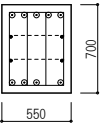
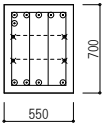
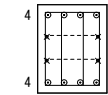
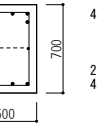
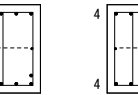
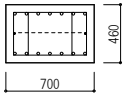
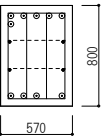
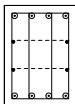
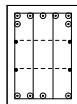
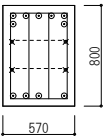
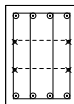
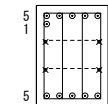
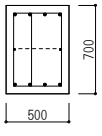
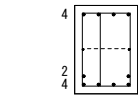


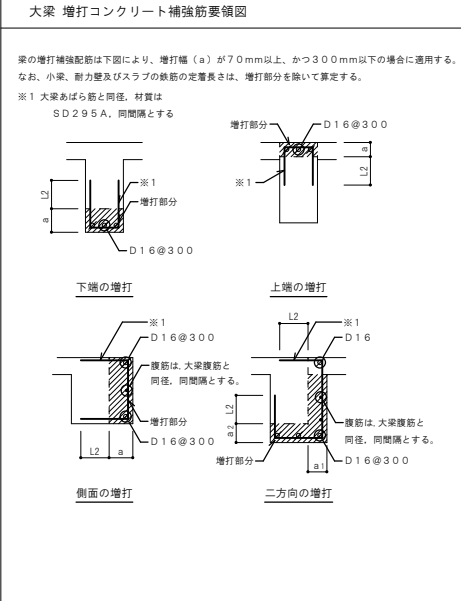
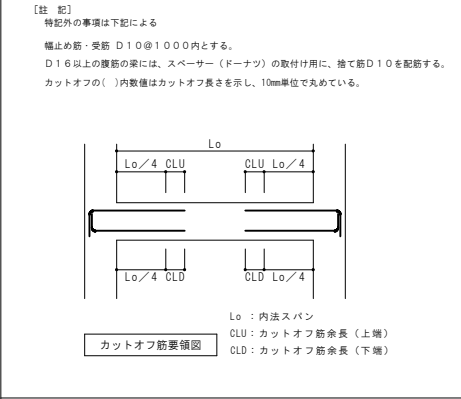
大梁 増打コンクリート補強筋要領図

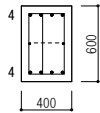
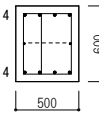
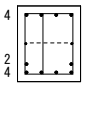
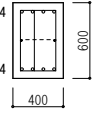
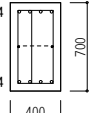
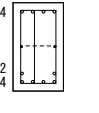
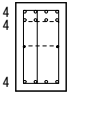
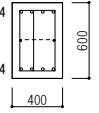
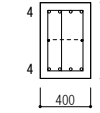
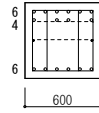
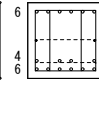
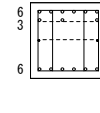
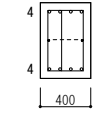
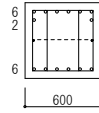
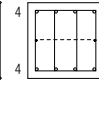
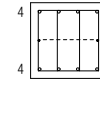
梁の増打補強配筋は下図により、増打幅（a）が70mm以上、かつ300mm以下の場合に適用する。
なお、小梁、耐力壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、増打部分を除いて算定する。

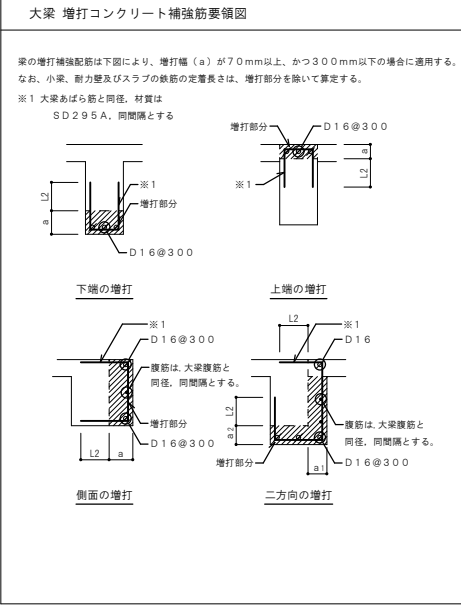
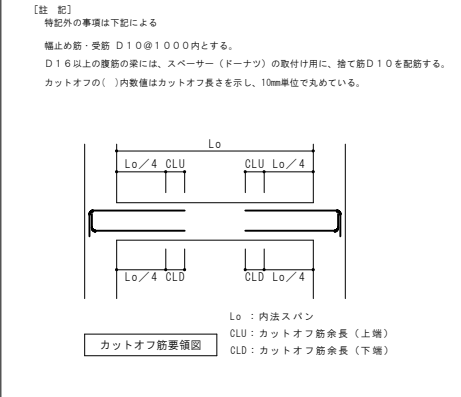
※1 大梁あばら筋と同径。材質は
SD295A。同間隔とする



階	符号	H5			H6			H7		H10
	位置	F端	中央	G端	G端	中央	H端	端部	中央	
RFL	断面									
	B × D	550x700			550x700			500x600		
	上端筋	4-D22	4-D22	7-D22	7-D22	4-D22	4-D22	4-D19	4-D19	
	下端筋	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D19	6-D19	
	スターラップ	▣(4)-D10#200			▣(4)-D10#200			▣(3)-D10#200		
	腹筋	2-D10			2-D10			2-D10		
	カット上筋 CLU	15d(330)			15d(330)			-		
	カット下筋 CLD	-			-			-		
3FL	位置	F端	中央	G端	G端	中央	H端	他端	中央	G端
	断面									
	B × D	550x700			550x700			500x700		700x460
	上端筋	5-D25	4-D25	6-D25	6-D25	4-D25	4-D25	6-D19	4-D19	4-D19
	下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D19	6-D19	4-D19
	スターラップ	▣(4)-D10#200			▣(4)-D10#200			▣(3)-D10#200		▣(4)-D10#200
	腹筋	4-D19※1			4-D13※1			2-D10		2-D10
	カット上筋 CLU	15d(380)			15d(380)			15d(290)		-
	カット下筋 CLD	-			-			-		-
2FL	位置	F端	中央	G端	G端	中央	H端	端部	中央	
	断面									
	B × D	570x800			570x800			500x700		
	上端筋	6-D25	4-D25	7-D25	7-D25	4-D25	6-D25	4-D19	4-D19	
	下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	4-D19	6-D19	
	スターラップ	▣(4)-D10#200			▣(4)-D10#200			▣(3)-D10#200		
	腹筋	4-D19※1			4-D13※1			2-D10		
	カット上筋 CLU	15d(380)			15d(380)			-		
	カット下筋 CLD	-			15d(380)			-		



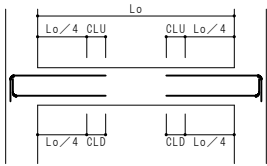
階	符号	G21	G22			G23	G23A	G24			G25	G26		
		位置									全断面	端部	中央	
3FL	断面													
	B × D										400x600	500x600		
	上端筋										4-D19	4-D19	4-D19	
	下端筋										4-D19	4-D19	6-D19	
	スターラップ										▢(3)-D10#200	▢(3)-D10#200		
	腹筋										2-D10	2-D10		
	カット上筋 (CLU)										-	-		
カット下筋 (CLD)										-	-			
2FL	位置	全断面	10端	中央	11端	全断面	全断面	11端	中央	12端	全断面	12端	中央	13端
	断面		  					  				  		
	B × D	400x600	400x700			400x600	400x600	600x600			400x600	600x600		
	上端筋	4-D22	4-D22	4-D22	8-D22	4-D22	4-D22	10-D22	6-D22	9-D22	4-D22	8-D22	4-D22	4-D22
	下端筋	4-D22	4-D22	6-D22	4-D22	4-D22	4-D22	6-D22	10-D22	6-D22	4-D22	6-D22	4-D22	4-D22
	スターラップ	▢(3)-D10#200	▢(3)-D10#150			▢(3)-D10#200	▢(3)-D10#100	▢(4)-D10#150			▢(3)-D10#200	▢(4)-D10#200		
	腹筋	2-D10	2-D10			2-D10	2-D10	2-D10			2-D10	2-D10		
	カット上筋 (CLU)	-	15d (330)			-	-	15d (330)			-	15d (330)		
	カット下筋 (CLD)	-	-			-	-	-			-	15d (330)		



階	符号	H21			H22	H23			H24			H25		H26		
3FL	位置															
	断面															
	B × D															
	上端筋															
	下端筋															
	スターラップ															
	腹筋															
	カット上筋 (CLU)															
2FL	位置	A端	中央	B端	全断面	C端	中央	D端	A端	中央	B端	端部	中央	C端	中央	D端
	断面															
	B × D	500x700			500x700	500x700			500x1400			500x1400		500x1400		
	上端筋	6-D22	5-D22	6-D22	4-D22	6-D22	5-D22	6-D22	4-D22	4-D22	6-D22	6-D22	4-D22	6-D22	4-D22	4-D22
	下端筋	6-D22	5-D22	5-D22	4-D22	5-D22	5-D22	6-D22	6-D22	6-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	6-D22	6-D22
	スターラップ	□(4)-D10#150			□(4)-D10#200	□(4)-D10#150			□(3)-D10#200			□(3)-D10#200		□(3)-D10#200		
	腹筋	2-D10			2-D10	2-D10			14-D13 (L2定着)			14-D13 (L2定着)		14-D13 (L2定着)		
	カット上筋 (CLU)	15d (330)			-	15d (330)			15d (330)			15d (330)		15d (330)		
	カット下筋 (CLD)	15d (330)			-	15d (330)			-			-		-		

階	符号	H27			H28		H29			H30			H31		H32		
3FL	位置	A端	中央	B端	端部	中央	C端	中央	D端	A端	中央	B端	端部	中央	C端	中央	D端
	断面																
	B × D	500x600			500x600		500x600			500x600			500x600		500x600		
	上端筋	5-D19	4-D19	7-D19	7-D19	4-D19	7-D19	4-D19	5-D19	4-D19	4-D19	6-D19	6-D19	4-D19	6-D19	4-D19	4-D19
	下端筋	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19
	スターラップ	□(3)-D10#200			□(3)-D10#200		□(3)-D10#200			□(3)-D10#200			□(3)-D10#200		□(3)-D10#200		
	腹筋	2-D10			2-D10		2-D10			2-D10			2-D10		2-D10		
	カット上筋 (CLU)	15d (290)			15d (290)		15d (290)			15d (290)			15d (290)		15d (290)		
	カット下筋 (CLD)	-			-		-			-			-		-		
2FL	位置	端部	中央		端部	中央	端部	中央		端部	中央		端部	中央	端部	中央	
	断面																
	B × D	500x700			500x700		500x700			500x700			500x700		500x700		
	上端筋	6-D22	4-D22		5-D22	4-D22	6-D22	4-D22		6-D22	4-D22		5-D22	4-D22	6-D22	4-D22	
	下端筋	4-D22	4-D22		4-D22	4-D22	4-D22	4-D22		4-D22	4-D22		4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	
	スターラップ	□(3)-D10#200			□(3)-D10#200		□(3)-D10#200			□(3)-D10#200			□(3)-D10#200		□(3)-D10#200		
	腹筋	2-D10			2-D10		2-D10			2-D10			2-D10		2-D10		
	カット上筋 (CLU)	15d (290)			15d (290)		15d (290)			15d (290)			15d (290)		15d (290)		
	カット下筋 (CLD)	-			-		-			-			-		-		

〔註 記〕
特記外の事項は下記による
橋止め筋・受筋 D 1 0 ④ 1 0 0 0 内とする。
D 1 6 以上の腹筋の梁には、スベーサー（ドーナツ）の取付け用に、捨て筋 D 1 0 を配筋する。
カットオフの（ ）内数値はカットオフ長さを示し、10mm単位で丸めている。

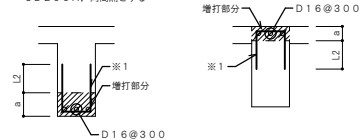


Lo : 内法スパン
CLU : カットオフ筋余長（上端）
CLD : カットオフ筋余長（下端）
カットオフ筋要領図

大梁 増打コンクリート補強筋要領図

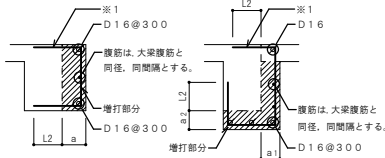
梁の増打補強配筋は下図により、増打幅（a）が70mm以上、かつ300mm以下の場合に適用する。
なお、小梁、耐力壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、増打部分を除いて算定する。

※1 大梁あばら筋と同径。材質は
SD295A、間隔調とする



下端の増打

上端の増打

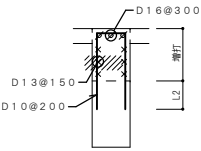


側面の増打

二方向の増打

H24、H25、H26の梁上増打部の腹筋はD13#150とする。
（小梁主筋は増打ちを除いて定着長を確保する。）

H24、H25、H26



符号	B1			B1A			B2		B2A			B2B	B3		B3A			B3B		
位置	4端	中央	5端	5端	中央	他端	端部	中央	2. 8端	中央	他端	全断面	端部	中央	始, 終端	中央	連続端	B3A端	中央	他端
断面																				
B × D	400x600			400x600			360x600		360x600			360x600	400x430		400x430			400x430		
上端筋	4-D19	4-D19	7-D19	7-D19	7-D19	4-D19	5-D19	3-D19	3-D19	3-D19	5-D19	5-D19	6-D22	4-D22	4-D22	4-D22	6-D22	6-D22	4-D22	6-D22
下端筋	4-D19	7-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	3-D19	4-D19	3-D19	3-D19	3-D19	4-D19	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	6-D22	6-D22	4-D22	4-D22
スターラップ	▮(3)-D10#200			▮(3)-D10#150			▮(3)-D10#200		▮(3)-D10#200			▮(3)-D10#200	▮(3)-D10#200		▮(3)-D10#200			▮(4)-D10#150		
腹筋	2-D10			2-D10			2-D10		2-D10			2-D10	2-D10		2-D10			2-D10		

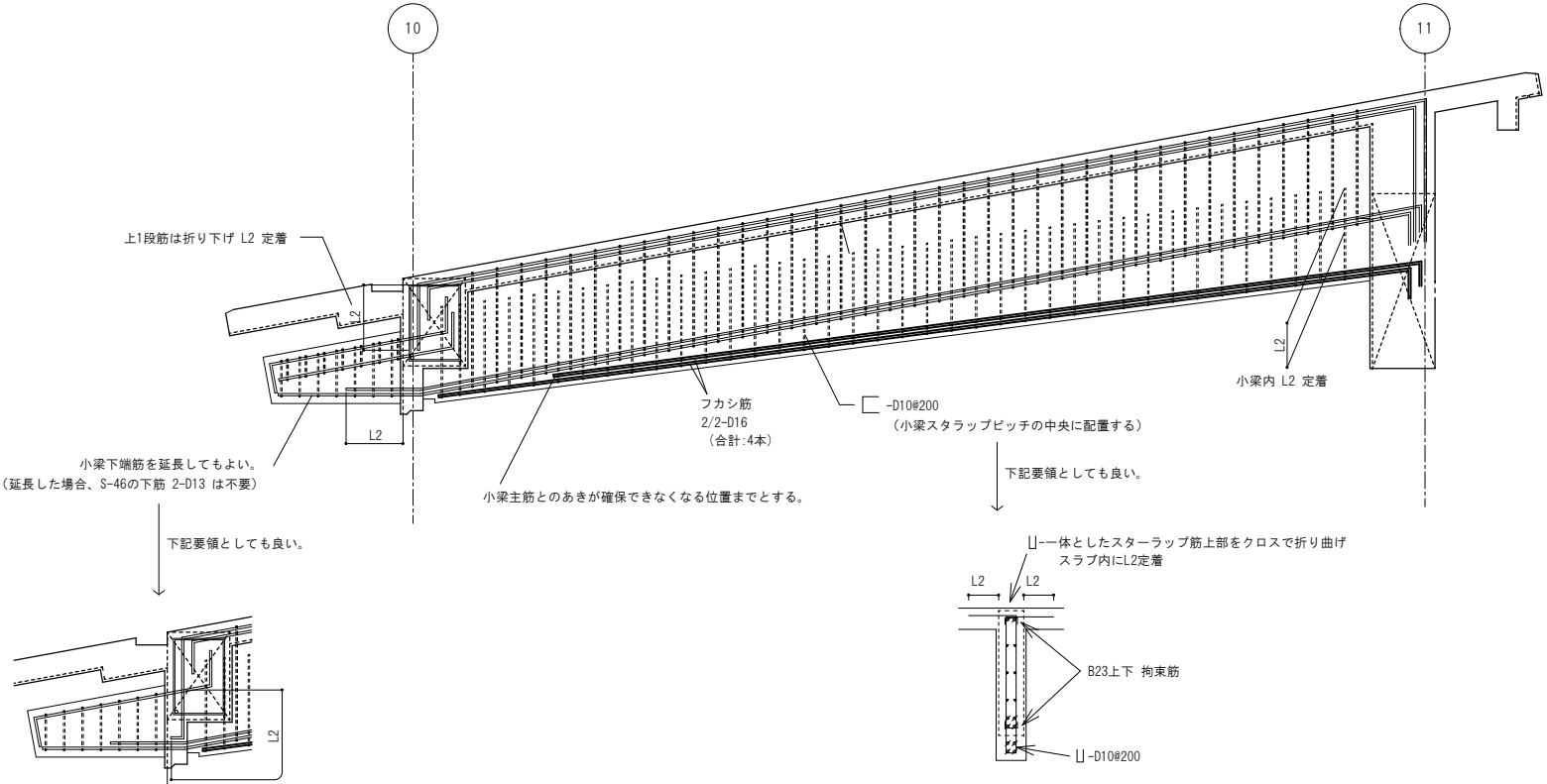
符号	B3C		B4	B5	B6		B7		B7A			B8		B8A		
位置	端部	中央	全断面	全断面	端部	中央	端部	中央	6. 9端	中央	内端	端部	中央	2端	中央	3端
断面																
B × D	400x430		250x500	400x600	350x430		400x600		400x600			360x600		360x600		
上端筋	4-D22	4-D22	2-D19	4-D19	3-D22	3-D22	4-D19	3-D19	3-D19	3-D19	4-D19	4-D19	3-D19	3-D19	3-D19	4-D19
下端筋	4-D22	8-D22	2-D19	4-D19	3-D22	5-D22	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19
スターラップ	▮(3)-D10#200		□(2)-D10#200	▮(3)-D10#200	▮(3)-D10#200		▮(3)-D10#200		▮(3)-D10#200			▮(3)-D10#200		▮(3)-D10#200		
腹筋	2-D10		2-D10	2-D10	2-D10		2-D10		2-D10			2-D10		2-D10		

符号	B8B			CH1		CH2		CH3		小梁 増打コンクリート補強筋要領図 梁の増打補強配筋は下図により、増打幅（a）が70mm以上かつ300mm以下の場合に適用する。 なお、スラブの鉄筋の定置長さは、増打部分を除いて算定する。 大梁あばら筋と同径。材質はSD295A、同間隔とする
位置	5端	中央	他端	元端	先端	元端	先端	元端	先端	
断面										
B × D	360x600			600x800		550x700		500x700		
上端筋	4-D19	4-D19	3-D19	10-D25	5-D25	9-D25	5-D25	10-D22	5-D22	
下端筋	3-D19	3-D19	3-D19	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	7-D22	5-D22	
スターラップ	▮(3)-D10#200			▮(4)-D10#150		▮(4)-D10#150		▮(4)-D10#150		
腹筋	2-D10			2-D10		2-D10		2-D10		

符号	B21		B22		B23	B24		B24A			B24B		B24C			B25	
位置	端部	中央	端部	中央	全断面	端部	中央	A, D端	中央	内端	端部	中央	A, D端	中央	内端	端部	中央
断面																	
B × D	400x700		450x700		200x1000	450x700		450x700			450x700		450x700			400x600	
上端筋	3-D19		3-D19		2-D16	6-D19		5-D22	5-D22	7-D22	7-D22		5-D19	5-D19	6-D19	6-D19	4-D19
下端筋	3-D19		4-D19		4-D16	5-D19		5-D22	6-D22	5-D22	5-D22		5-D19	5-D19	5-D19	4-D19	4-D19
スターラップ	□(3)-D10#200		□(3)-D10#200		□(2)-D10#200	□(3)-D10#200		□(4)-D10#150			□(4)-D10#150		□(3)-D10#200			□(3)-D10#200	
腹筋	2-D10		2-D10		6-D10	2-D10		2-D10			2-D10		2-D10			2-D10	

符号	B25A			小梁 増打コンクリート補強筋要領図 梁の増打補強配筋は下記により、増打幅（a）が70mm以上かつ300mm以下の場合に適用する。 なお、スラブの鉄筋の定置長さは、増打部分を除いて算定する。 増打部分 D16@300 a SI 大梁あはら筋と同径、材質はSD295A、同間隔とする
位置	A, D端	中央	内端	
断面				
B × D	400x600			
上端筋	4-D19	4-D19	6-D19	
下端筋	4-D19	5-D19	4-D19	
スターラップ	□(3)-D10#200			
腹筋	2-D10			

B23 梁下フカシ要領



※1 端部縦補強筋要領図

(平面)

(シングル配筋の場合)

※2 隅部縦補強筋要領図

(平面)

(シングル配筋の場合)

※3 頂部横補強筋要領図

(立面)

(シングル配筋の場合)

端部縦補強筋

— (壁筋と同時
— 間ピッチ)

(ダブル配筋の場合)

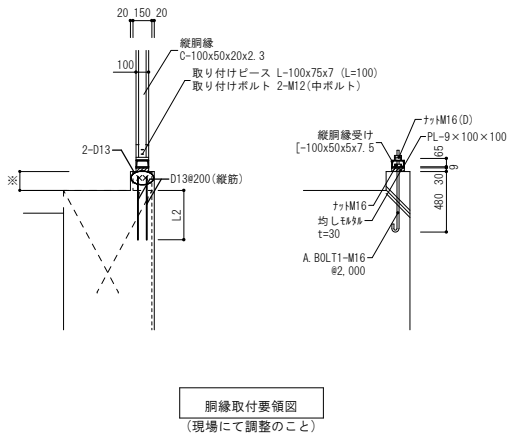
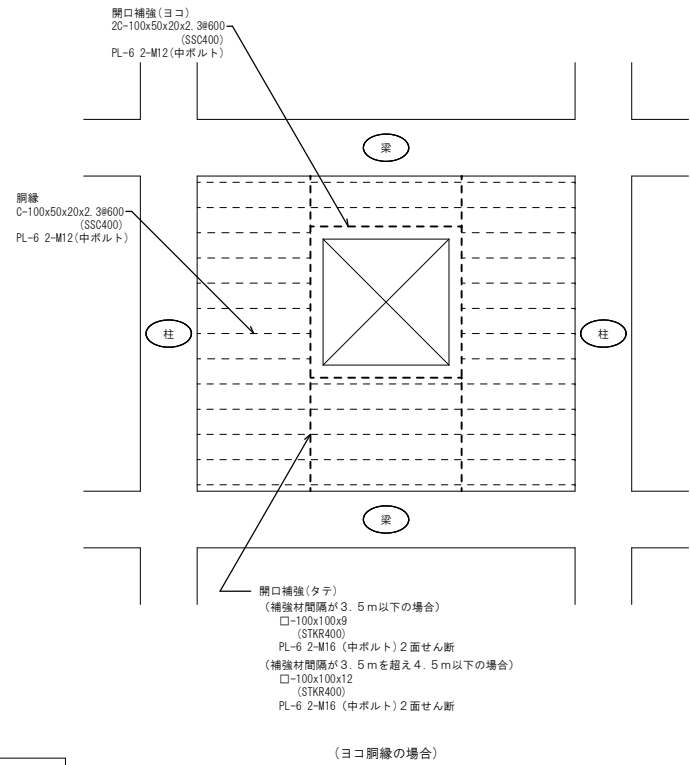
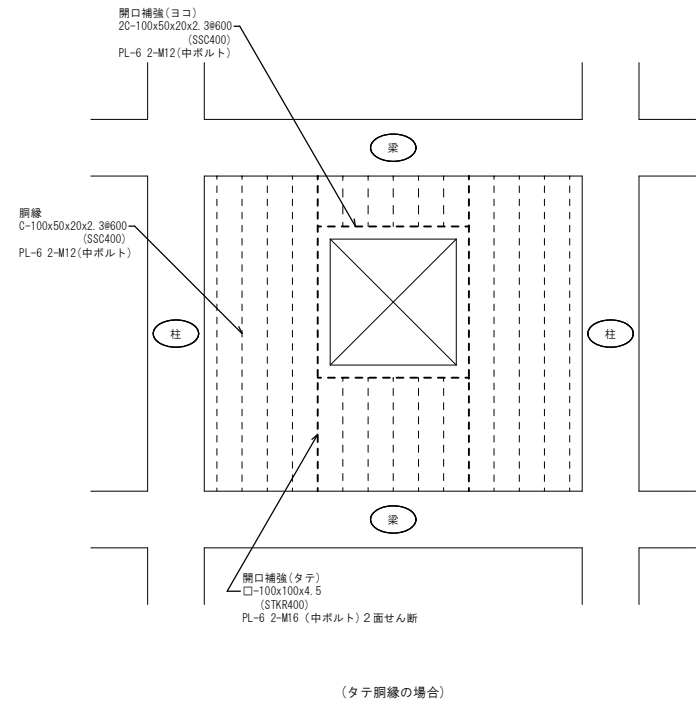
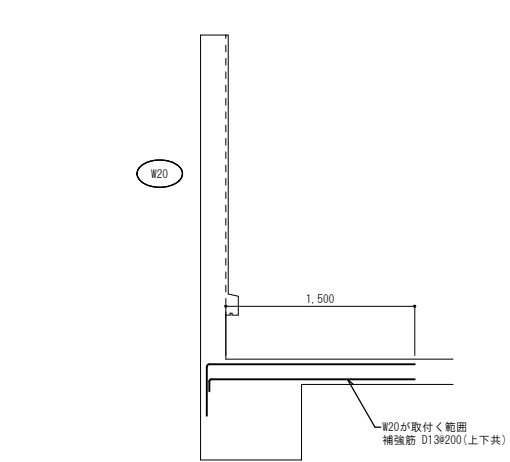
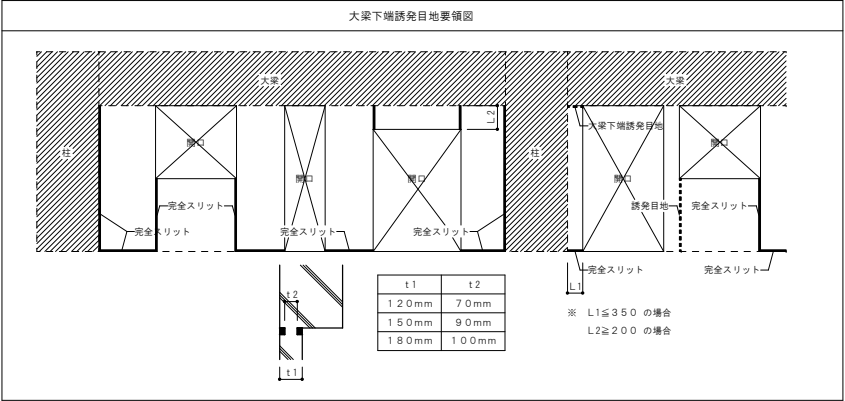
隅部縦補強筋

頂部横補強筋

— (壁筋と同時
— 間ピッチ)

(ダブル配筋の場合)

柱 座 部 （ 完 全 スリット ）	梁 上 部 （ 完 全 スリット ・ 水密タイプ ）		
Technical drawings of the column base (完全スリット) showing internal and external views. The drawings include dimensions for the column diameter (D 13@400), the base width (W), and the base height (250). The internal view shows the column passing through the base with a seal (シーリング材) and a 1-D 13 reinforcement bar. The external view shows the column passing through the base with a seal (シーリング材) and a 2-D 13 reinforcement bar.	< 壁長が 3 m 以下の場合 > Technical drawings of the beam top (完全スリット・水密タイプ) for wall length ≤ 3m showing internal and external views. The drawings include dimensions for the beam width (W), the beam height (250), and the reinforcement bars (2-D 13, 2-D 16, D 13@400). The internal view shows the beam passing through the wall with a seal (シーリング材) and a 2-D 13 reinforcement bar. The external view shows the beam passing through the wall with a seal (シーリング材) and a 2-D 16 reinforcement bar.	< 壁長が 3 m を超える場合 > （ひび割れ調査目地が 3 m 以内に入る場合は除く） Technical drawings of the beam top (完全スリット・水密タイプ) for wall length > 3m showing internal and external views. The drawings include dimensions for the beam width (W), the beam height (250), and the reinforcement bars (2-D 16, 2-D 19, D 13@400). The internal view shows the beam passing through the wall with a seal (シーリング材) and a 2-D 16 reinforcement bar. The external view shows the beam passing through the wall with a seal (シーリング材) and a 2-D 19 reinforcement bar.	< 防水立上り部 > Technical drawings of the waterproofing upturn (防水立上り部) showing internal and external views. The drawings include dimensions for the upturn height (250), the upturn width (W), and the reinforcement bars (2-D 16, 2-D 19, D 13@400). The internal view shows the upturn with a seal (シーリング材) and a 2-D 16 reinforcement bar. The external view shows the upturn with a seal (シーリング材) and a 2-D 19 reinforcement bar.



乾式壁取付要領図

中ボルトには、ゆるみ止め(スプリングワッシャー使用等)を行うこと。

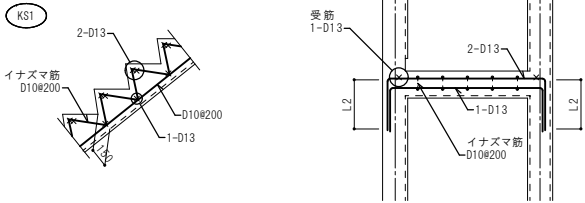
スラブリスト(宿泊棟)

符 号	版 厚	位 置	主 筋 方 向		配 筋 方 向		備 考
			端 部	中 央 部	端 部	中 央 部	
S 1	180	上端筋	D10D13 @200	←	D10 @200	←	
		下端筋	D10 @200	←	D10 @200	←	
S 2	150	上端筋	D10D13 @200	←	D10 @200	←	
		下端筋	D10 @200	←	D10 @200	←	
S 3	200	上端筋	D13 @150	←	D10 @150	←	
		下端筋	D13 @150	←	D10 @150	←	
S 4	150	上端筋	D10D13 @150	←	D10 @150	←	
		下端筋	D10 @150	←	D10 @150	←	
S 5	180	上端筋	D10D13 @150	←	D10 @150	←	
		下端筋	D10 @150	←	D10 @150	←	
S 10	210	上端筋	D13 @100	←	D10 @150	←	
		下端筋	D10 @100	←	D10 @150	←	
F S 1	250	上端筋	D13 @150	←	D13 @150	←	
		下端筋	D13 @150	←	D13 @150	←	
階段縁境	180	上端筋	D13 @200	←	D13 @200	←	
		下端筋	D13 @200	←	D13 @200	←	

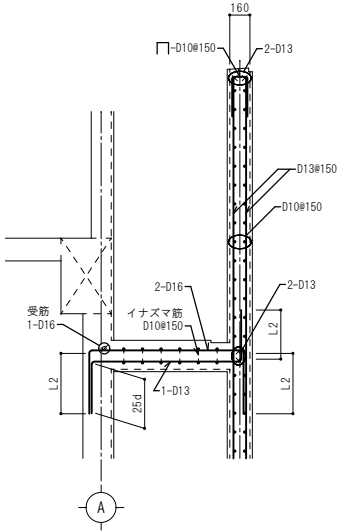
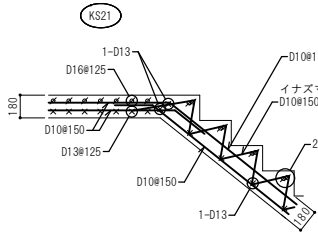
スラブリスト(温浴棟)

符 号	版 厚	位 置	主 筋 方 向		配 筋 方 向		備 考
			端 部	中 央 部	端 部	中 央 部	
S 21	180	上端筋	D10D13 @200	←	D10 @200	←	
		下端筋	D10 @200	←	D10 @200	←	
S 21 A	210	上端筋	D13 @100	←	D13 @100	←	
		下端筋	D13 @100	←	D13 @100	←	
S 21 B	180	上端筋	D10D13 @150	←	D10 @200	←	
		下端筋	D10 @150	←	D10 @200	←	
S 22	150	上端筋	D10D13 @150	←	D10 @150	←	
		下端筋	D10 @150	←	D10 @150	←	
S 23	150	上端筋	D10D13 @200	←	D10 @200	←	
		下端筋	D10 @200	←	D10 @200	←	
S 24	150	上端筋	D10D13 @150	←	D10 @150	←	
		下端筋	D10 @150	←	D10 @150	←	
S 25	150	上端筋	D10D13 @150	←	D10 @150	←	
		下端筋	D10 @150	←	D10 @150	←	
S 26	150	上端筋	D10D13 @150	←	D10 @150	←	
		下端筋	D10 @150	←	D10 @150	←	
S 27	200	上端筋	D13 @150	←	D10 @150	←	
		下端筋	D10 @150	←	D10 @150	←	

符 号	版 厚	位 置	主 筋 方 向		配 筋 方 向		備 考
			全 域		全 域		
CS 21	150	上端筋	D10D13 @150		D10 @150		
		下端筋	D10 @150		D10 @150		
CS 22	200～140	上端筋	D13 @150		D10 @150		
		下端筋	D10 @150		D10 @150		
CS 22 A	200～140	上端筋	D13 @100		D13 @100		
		下端筋	D10 @100		D10 @100		
CS 22 B	200～140	上端筋	D13 @ 75		D13 @100		
		下端筋	D10 @ 75		D10 @100		
CS 23	200～140	上端筋	D10D13 @150		D10 @150		
		下端筋	D10 @150		D10 @150		
KS 21	180	上端筋	D16 @125		D10 @150		
		下端筋	D13 @125		D10 @150		

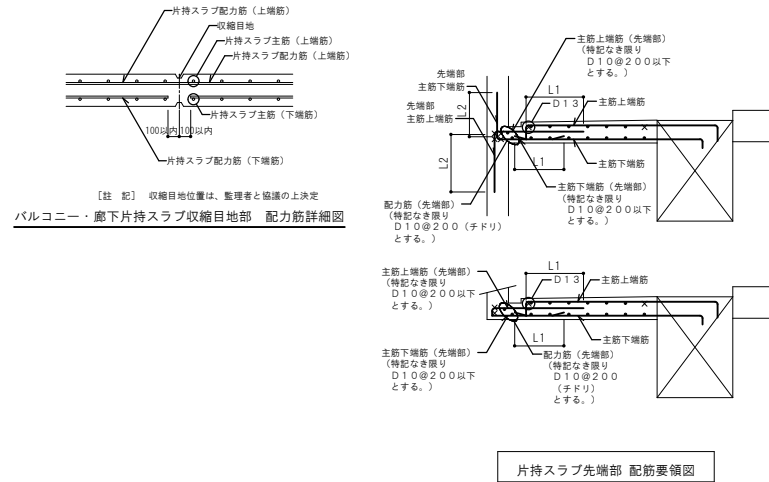


宿泊棟 屋外階段 配筋詳細図 S=1:30



温浴棟 屋外階段 配筋詳細図 S=1:30

共通事項



片持スラブ先端部 配筋要領図

構造設計担当：一般建築士事務所広島県知事登録第16(1)5162号 株式会社 坂田建築工学研究所
一般建築士大匠登録第 335066 号 / 構造設計一般建築士第 9344 号 坂田寛彦

TITLE 潮温泉施設建設工事

スラブリスト

S=1:---

株式会社 沖本初建築設計事務所

No. S-41 (E)

一般建築士大匠登録第103472号 沖 本 初

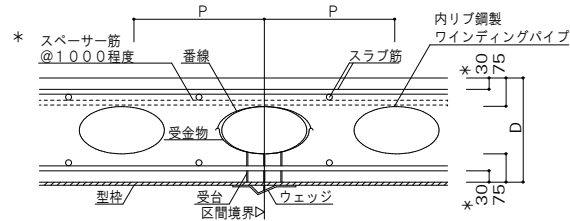
一般建築士事務所広島県知事登録 16(1)第0241号

[A1版:原図 → A3版:50%縮小]

OKI.AA
HOKIMOTO ARCHITECTS & ASSOCIATES
2-21-404 Tsurumi cho Naka ku Hiroshima, 730-0045, Japan

中空スラブリスト								1 : 30	注記) W. P. はワインディングパイプを示す	
記号	VS1					VS1 段差部 (水廻り)				
W. P.	φ 200 × 100#325					—				
方向	主方向			直交方向		主方向	直交方向			
位置	端部	中央	全断面	端部	中央	全断面	全断面			
	A	B	C	C	A B	E, F	E, F			
断面										
上端筋	2-D13	1-D13	3-D13	2-D13	1-D13	2-D13	2-D13			
下端筋	2-D13	2-D13	2-D13	1-D13	2-D13	2-D13	2-D13			

中空スラブ断面図



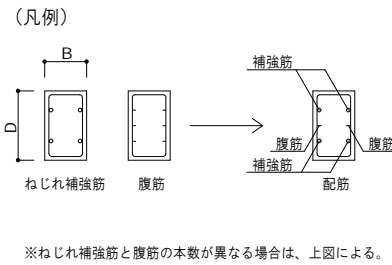
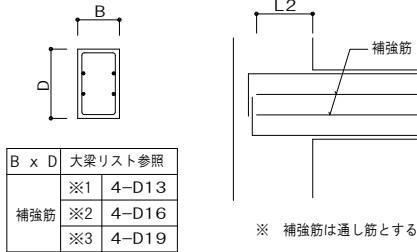
Pは、パイプピッチ Dは、版厚 を示す。

D	P	パイプ径	備 考
250	325	200 x 100	

- * 屋外に接する場合、鉄筋かぶりを40mmとし、上端筋が屋外に面する場合はスパーサ筋は設けないこと
- パイプは東本鐵工所製定尺パイプ(300ピッチ)とするが、場合により任意長さ追加も可とする。
- 図はウェッジによる受台固定を示す。監理者の承諾を得て固定方法を変更してよい。

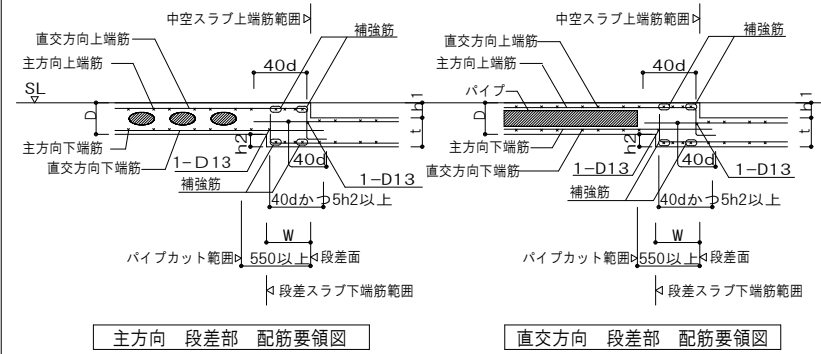
受梁ねじれ補強要領

※ねじれ補強筋は、腹筋を兼用して良い。
※補強筋は柱にL2定着させること。



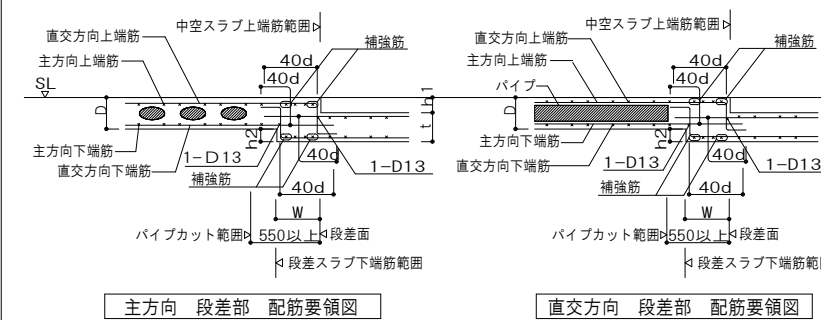
段差部配筋要領 (1)

E 区間 (水廻り部)



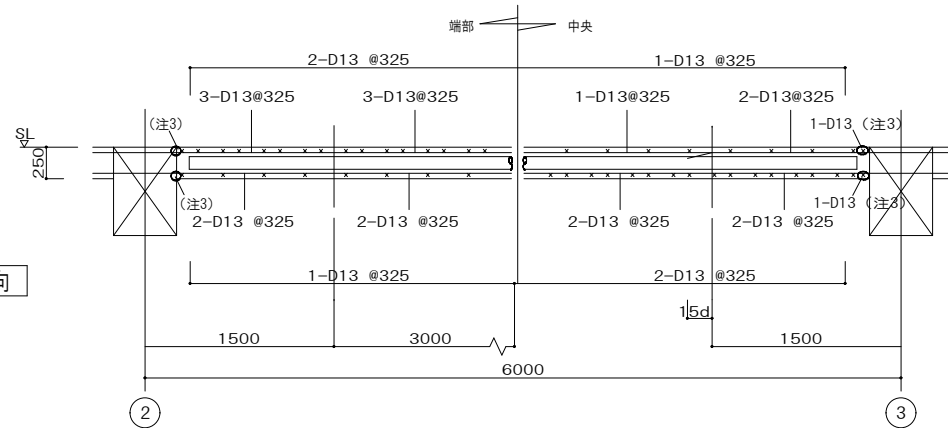
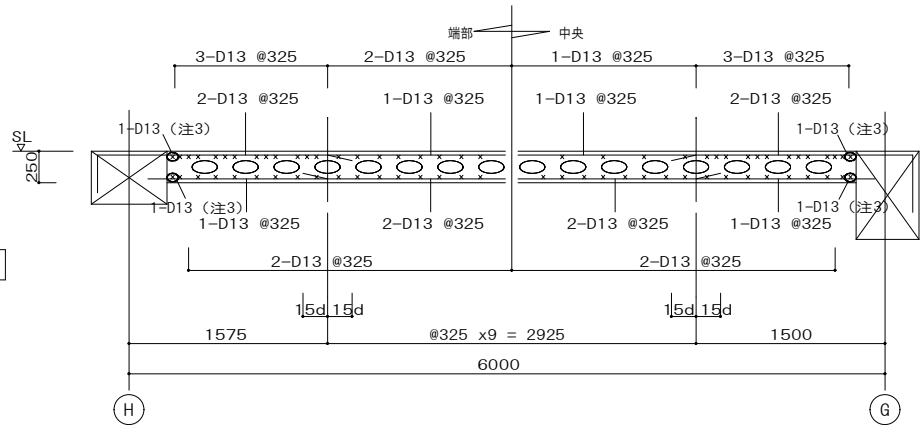
段差部配筋要領 (2)

F 区間 (水廻り部)

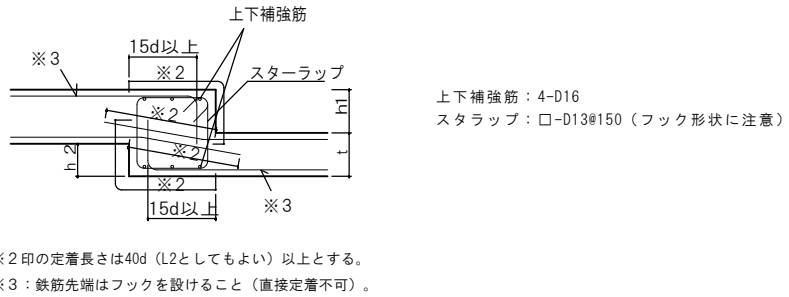


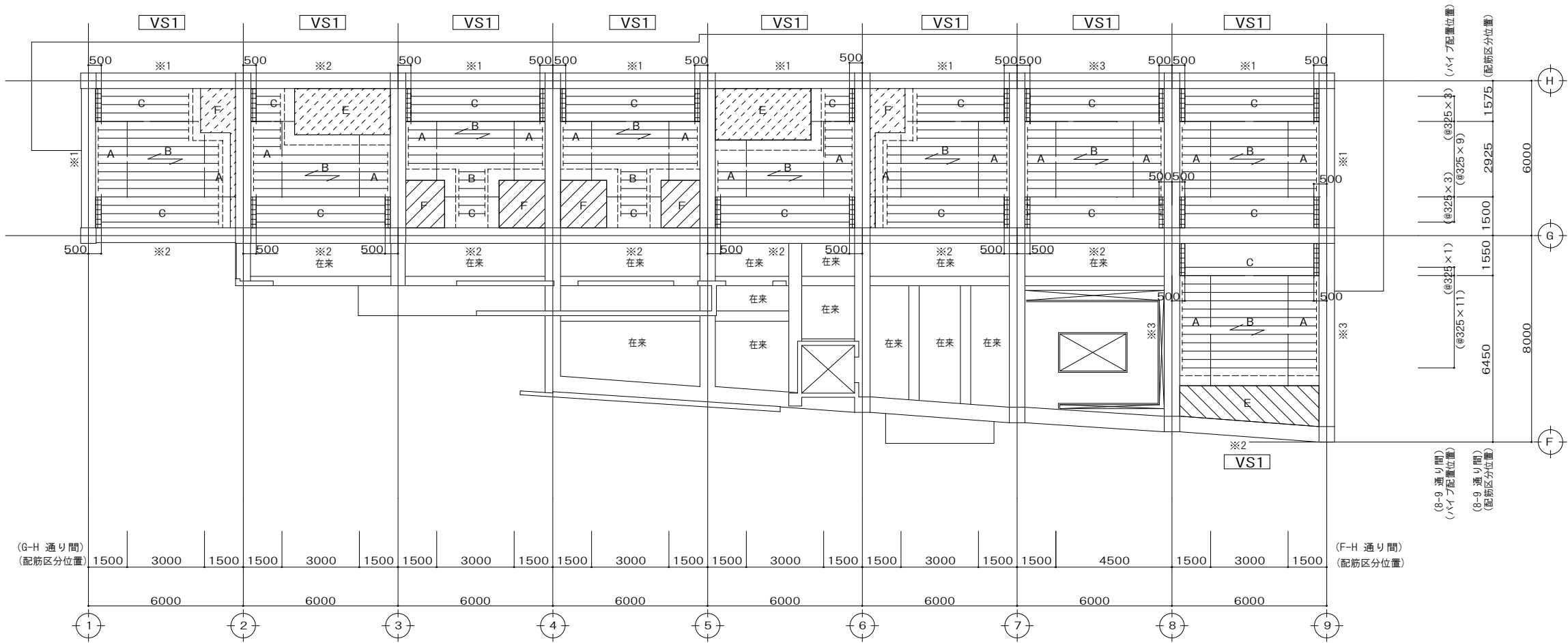
VS1 断面配筋図 1:30 ワインディングパイプφ-200×100

- 注1) 断面位置は、割付図参照
注2) スラブ筋の定着要領は、中空スラブ標準仕様書参照
注3) 梁際配筋については中空スラブ標準仕様書13. を参照



段差梁タイプとする場合





2 階ボイド伏図 1:100

- 特記なき限り
版厚はD250 (SL±0) とする
→ は主方向を示す
└─┘ はパイプ径φ200×100を示す
▨ は水廻り段差位置 (SL-210 D180) を示す
▩ は水廻り段差位置 (SL-220 D180) を示す
▪ は水廻り段差位置 (SL-270 D180) を示す
▧ はパイプ除去範囲を示す
※ はねじれ補強位置を示す

構造設計担当：一級建築士事務所広島県知事登録第16(1)5162号 株式会社 坂田建築工学研究所
一級建築士大臣登録第 335068 号 / 構造設計一級建築士第 9344 号 坂田直彦

TITLE 潮温泉施設建設工事

2 階ボイド伏図

S=1:100

株式会社 沖本初建築設計事務所

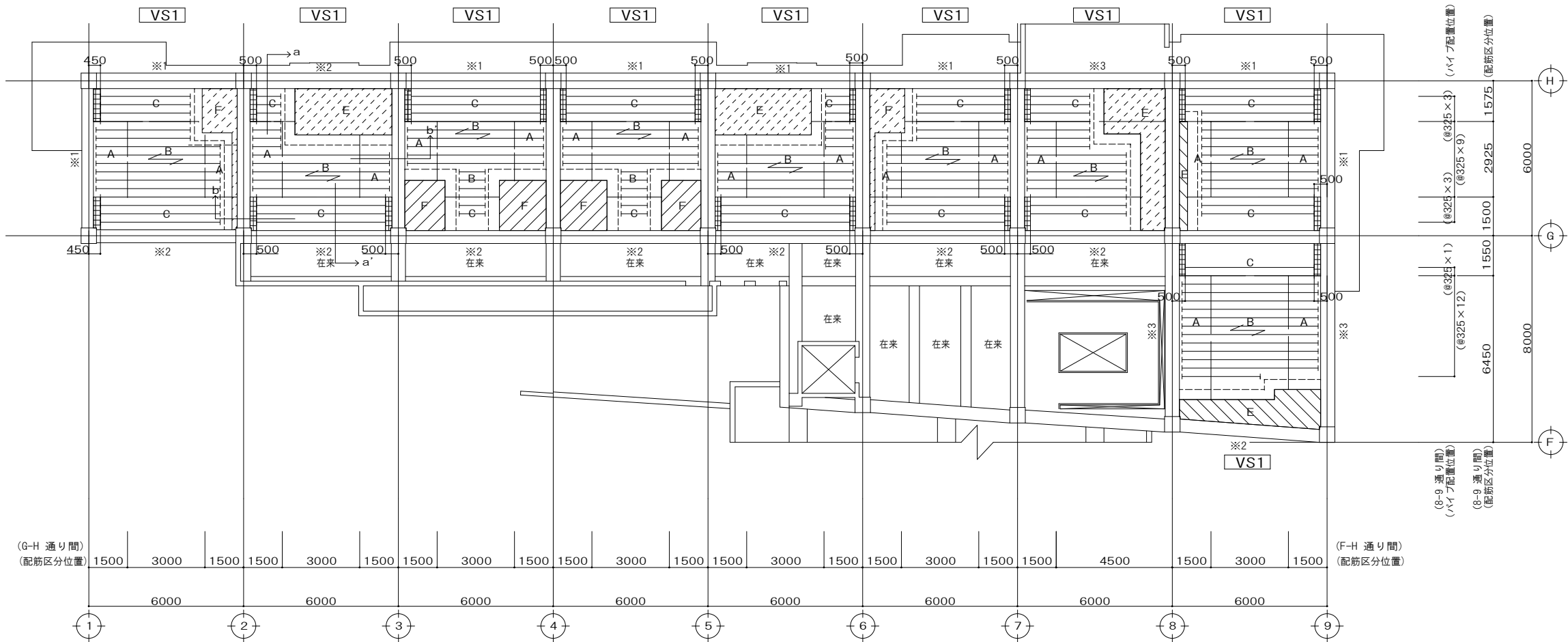
No. S-44 (E)

一級建築士大臣登録第103472号 沖 本 初

一級建築士事務所広島県知事登録 16(1)第0241号

[A1版:原図 → A3版:50%縮小]

OKI.AA
HOKIMOTO ARCHITECTS & ASSOCIATES
2-21-404 Tsurumi-cho Naka-ku Hiroshima, 730-0045, Japan



3 階ボイド伏図 1:100

特記なき限り
版厚はD250 (SL±0) とする
➡ は主方向を示す
┌─┐ はパイプ径φ200×100を示す
▨ は水廻り段差位置 (SL-210 D180) を示す
▧ は水廻り段差位置 (SL-220 D180) を示す
▩ は水廻り段差位置 (SL-270 D180) を示す
▦ はパイプ除去範囲を示す
※ はねじれ補強位置を示す
中空スラブ断面配筋図 断面位置
a-a' 主方向断面位置
b-b' 直交方向断面位置

構造設計担当：一級建築士事務所広島県知事登録第16(1)5162号 株式会社 坂田建築工学研究所
一級建築士大臣登録第 335068 号 / 構造設計一級建築士第 9344 号 坂田直彦

TITLE 潮温泉施設建設工事

3 階ボイド伏図 S=1:100

株式会社 沖本初建築設計事務所

No. S-45 (E)

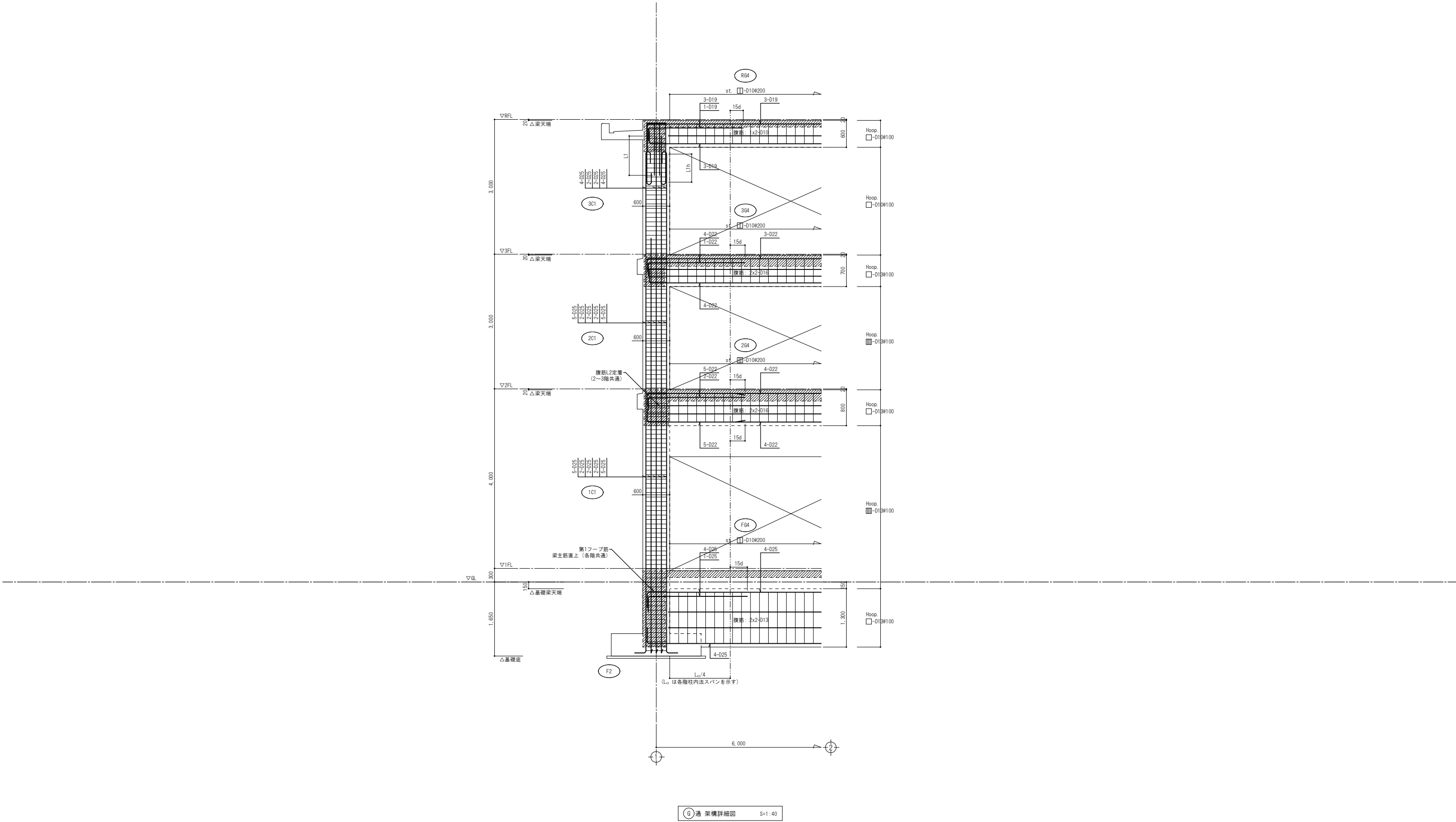
一級建築士大臣登録第103472号 沖本 初

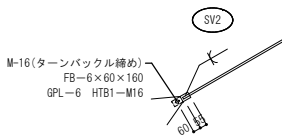
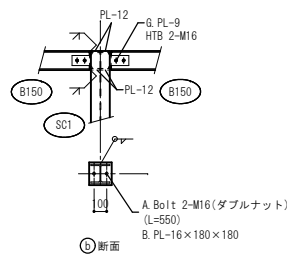
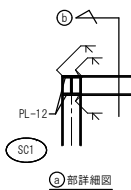
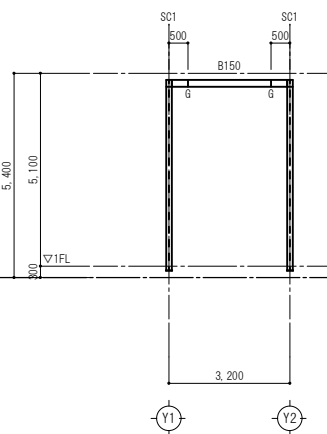
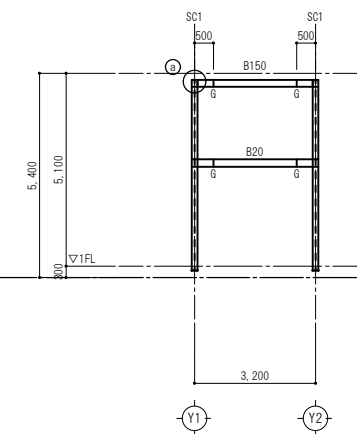
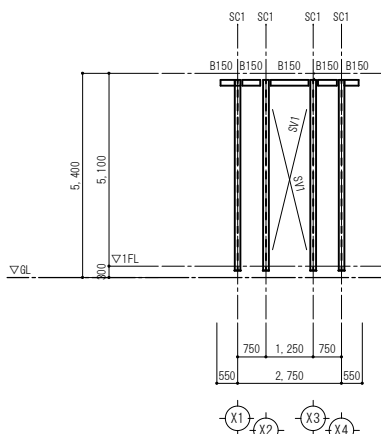
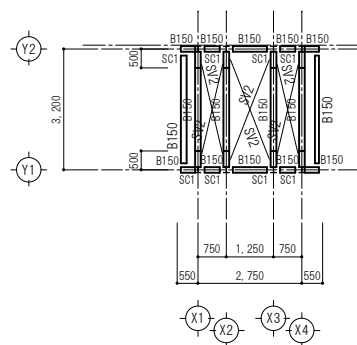
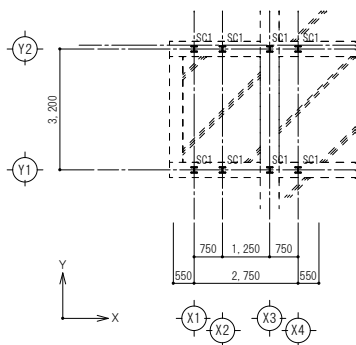
一級建築士事務所広島県知事登録 16(1)第0241号

[A1版:原図 → A3版:50%縮小]

OKI.AA
HOKIMOTO ARCHITECTS & ASSOCIATES
2-21-404 Tsurumi cho Naka ku Hiroshima 730-0045, Japan

屋上庇 配筋詳細図	屋上庇 配筋詳細図	エントランス庇 配筋詳細図	バラベット・庇コーナー 配筋詳細図	バラベット 配筋詳細図
バルコニー 配筋詳細図	バルコニー 配筋詳細図	煙突 配筋詳細図	トップライト 配筋詳細図	外壁部 配筋詳細図
屋上庇・バルコニー ドレーン部 配筋要領図	温浴棟屋根庇 配筋詳細図	温浴棟10通り飾り梁 配筋詳細図		外壁受けスラブ 配筋詳細図





部材リスト

・使用部材は SS400 とする。

符号	部材	備考
SC1	H-150×150×7×10	
B20	H-200×100×5.5×8	
B150	H-150×150×7×10	
SV1	FB-90×9	
SV2	JIS-M16	接合部は、詳細図による。

大梁ジョイントリスト

・ Gは 剛接ジョイントを示す。

断面寸法	材質	HTB	フランジ				ウェブ			備考
			nF×mF	g1	g2	スプライスプレート	mW×nW	Pc	スプライスプレート	
H-150×150×7×10	SS400	M16	2×2	90	—	PL-9×150×290 2PL-9-60×290	1×2	60	PL-6×80×350	ピン接合部：G、PL-9 HTB 2-M16(φ60)
H-200×100×5.5×8	SS400	M16	2×2	56	—	PL-16×100×290 —	2×1	60	PL-6×140×170	

高力ボルト配置パターン図(単位:mm)

・高力ボルトの配置

・ nF, mF, nW, mW は、高力ボルト本数を示す。
 ・ チドリ配置の場合には、mF=2 とする。

(1) フランジ

(a) B=100 の場合

(b) $100 < B < 300$ の場合

(c) B=300(偶数列) の場合

(d) B=300(奇数列) の場合

(e) $B > 300$ の場合

(2) ウェブ

・ ボルト本数の偶数奇数によらず、ウェブ心から上下均等に振り分けとする。
 ・ P_c は、梁成方向のボルトピッチを表す。
 数値の頭に * がついている場合には、ウェブの材軸方向のボルト並びをフランジのボルト並びに対して半ピッチ(30mm)外側にずらすことを表している。

(a) 1列配置

(b) 2列配置

小梁・間柱ジョイントリスト

断面寸法	材質	HTB		材軸方向		梁成方向	ガセットプレート	備考
		本数	径	縁端距離	ピッチ	ピッチ		
H-150×150×7×10	SS400	2	M16	35	—	50	PL-9	
FB-90×9	SS400	3	M20	40	—	—	PL-9	

間柱柱脚リスト S=1:30

・使用部材は SS400 とする。

ベースプレート	H-150x150x7x10
部材	
ベースプレート	16
アンカーボルト	2-M16(SS400) ダブルナット L=550

